



創造する経済人 行動する同友会

富山経済同友会 活動報告書

【活動報告書】

- ・ 活動方針と活動計画
- ・ 継続事業報告
- ・ 新しい取組み報告
 - (1) 提言の実践
 - (2) 学び方改革の推進
 - (3) 大学（高等教育機関）と経済界の連携強化
- ・ 次期教育問題委員会に向けて

2023 年（令和 5 年）3 月
富山経済同友会
教育問題委員会

目次

はじめに.....	1
1. 活動方針.....	2
(1)第12次(2021～2022年度)活動方針.....	2
(2)第1次～第12次までの施策推移.....	3
2. 活動計画.....	4
(1)継続事業.....	4
(2)新しい取組み.....	4
3. テーマ別報告.....	6
○第12次教育問題委員会の活動一覧.....	6
(1)継続事業報告.....	9
①子どもたちと直接接点を持つ取組み.....	9
・課外授業講師派遣.....	9
・企業見学、インターンシップ協力.....	11
②子どもたちに最も身近な教師と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み.....	12
・教師と企業人との多様な交流.....	12
・海外教育事情視察.....	13
・宿泊を伴う県外視察.....	14
・教職員研修講師派遣.....	18
・(教職員)社会体験研修協力.....	20
③子どもたちに最も身近な親と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み.....	22
・家庭の教育力向上.....	22
④会員の啓発・資質向上の取組み.....	23
・他経済同友会との交流.....	23
・講演会:「データで読み解く『富山の人口問題』～なぜ企業経営者が鍵を握るのか～」	25
・勉強会:特別支援教育の理解促進.....	26
・他委員会との交流(文化スポーツ委員会)「ボッチャ体験会」.....	27
(2)新しい取組み報告.....	28
①提言の実践における活動報告.....	28
・富山県教育委員会との活動報告.....	28
②学び方改革の視点からの活動報告.....	31
・オンラインヒアリング(オーストラリア クィーンズランド大学).....	31
③大学と経済界の連携強化の視点からの活動報告.....	33
4. 次期教育問題委員会に向けて(アドバイザー及び委員より寄稿).....	34
おわりに.....	39
添付資料.....	40

はじめに

2021年4月20日に正副委員長会議(第1回)が開催され、委員長1名、副委員長7名、アドバイザー3名、事務局2名で2年間の基本的な方針や活動計画を検討していただいた。同年7月開催の第1回教育問題委員会(全体会)は委員44名、アドバイザー3名、事務局2名の総勢49名で第12次教育問題委員会が発足した。

これまで各次において数々の提言を行ってきたが、その提言が教育界においてどのように評価され、具体的に検討され、結果としてどうなったのか。また、各次の施策はどのように変化してきたのか、先輩方が編纂された各種資料を紐解いて時系列にまとめてみた。第12次では、継続事業に軸を置きながらも、提言の実践として直前次(第11次)の提言のフォローを行うこととした。加えて学び方改革の視点、大学(高等教育機関)と経済界の連携強化を活動方針とした。

さらに委員会の最大のテーマである「委員の積極的な参加・研鑽」を促すための試みとして、課外授業講師派遣やその他講師派遣において、これまで未経験の方や久しい方々をお願いをすることとした。幸い多士済々の教育問題委員会であり、教育現場からも高い評価をいただいた。講師の方々からも「刺激を受けた」、「いい経験となった」などの前向きな声が多く聞かれた。また、運営面の新しい試みとして、正副委員長、委員全員を4チームに分け、それぞれが主体的に取り組むテーマを決め、委員の積極的な参加による活動をお願いした。これは他の委員会でも分科会的に行われ、現在は小委員会となっている。

2年間の活動では、学校や教員研修に講師として伺ったり、教育現場へのアンケートやインタビューも快く応じていただいた。研修・視察などにも教育現場の皆様をお誘いしたり、富山県教育委員会の方々と様々なテーマで情報交換を行ったりと、様々なおつきあいもしていただいた。僅かな時間ではあるが、人生の一場面を共に学び、共に考えた貴重な経験をさせてもらったと思っている。本活動報告書は第12次教育問題委員会の活動のまとめとして編纂しているが、何らかの気づきや今後のお役に立つことがあるならば、これに勝る喜びはない。アドバイザー、副委員長はじめ委員の皆様には、活動を支えていただいて、心より感謝申しあげたい。

2023年3月吉日
教育問題委員長
高瀬幸忠

1. 活動方針

(1)第 12 次（2021～2022 年度）活動方針

①テーマ ※○数字は第 11 次委員会提言における方策番号

持続可能な人づくり(次世代を担う人財育成)

【生きる力を育むために経済人として果たす役割を考える

→家庭教育、学校教育、社会教育の向上○】

- ・従業員の家庭教育支援（方策③、⑧）
- ・親学の推進（方策⑥、⑦）
- ・教師の教育力向上支援（方策②、⑨）
- ・教師と企業人との交流促進（方策①）
- ・課外授業講師の派遣（方策④）
- ・教育関係者等との交流（方策⑩、大学との交流）

継続事業

②方針(新しい取組み)

・提言を実践する

第 11 次委員会では、子どもたちの「生きる力」を育む社会の創造を提言した。
教育界のニューノーマルに沿って、この提言内容を実践する。

・学び方改革を推進する

子どもたちの生きる力を育むには、教える側だけでなく、教えられる側の問題も大切と考える。それは学び方に起因するのではないか。「学び方改革」をテーマに据え、子どもたちだけでなく社会人の側にも広く求めたい。

・大学の教育問題に関わる → 大学（高等教育機関）と経済界の連携強化

教育問題について、これまで小・中・高校を中心に取り組んできたが、高等教育機関である大学までその範囲を拡げる必要はないだろうか。地域社会と教育の連携の場としても重要な位置づけにある 大学と積極的に関わり、経済界としてやれることを考える。

【年度別計画】

方 針	令和 3 年度	令和 4 年度
提言を実践する	教育界のニューノーマルを確認しその基準に沿って実践する。	実践した内容を評価し、発展的な改善や新たな施策を実行する。
学び方改革を推進する	学びに関する意識を調査する。オンライン海外視察を行う。	学び方改革のポイントを整理し、教育界だけでなく、富山県全体に発信する。
大学の教育問題に関わる	大学における地域連携の事例を研究する。(富山、日本、海外)	大学の地域社会に果たす役割、小・中・高校との関わりに学び、経済界の地域社会との関わり方を発信する。

(2)第1次～第12次までの施策推移

	1998	2000	03	05	07	09	11	13	15	17	19	21	23
施 策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
家庭を考えるフォーラム	○	○											
課外授業講師派遣制度（○は校数）	○	⑪	⑫	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	
地域コミュニティ支援	○												
交流勉強会（○は回数）	○	⑧	⑭	⑮	⑯	㉑	㉒	㉓	㉔				
家庭でのふれあい機会創出		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
教員の企業研修機会の提供		○											○
家庭教育を見直すフォーラム		⑤	①	①	①								
わが家のきまりのすすめ			○	○	○	○	○						
家庭教育アドバイス講座 in 企業				○	○								
従業員家族を対象とした見学会				○	○	○	○						計画
伝えよう「親心」推進月間					○	○	○	○	○	○	○	○	○
仕事と子育ての両立の調査					○								
海外教育事情視察の実施					①	①	①	①	②	②	①		計画
家庭教育サポート宣言					○	○							
仕事と家庭の両立支援推進シブ						○							
子どもたちに読んでほしい1冊						③③	○						
14歳の挑戦事業への積極的支援						○	○						
ふるさと教育の推進						○	○						
いじめ根絶への道徳教育の充実						○	○						
教員の人間力・教育力向上支援						○	○						
教育問題の基本を学ぶ会							②						
他県の教育問題委員会交流会							①	②	②	②	①	②	
親学勉強会								○					
北陸新幹線開業/技術革新実感								○					
イクボス推進									○				
教師と企業人との交流										③	③	○	
教育講演等の実施										⑩	⑧	⑰	
学び方改革の推進												○	
大学と経済界の連携強化												○	
宿泊を伴う県外視察の実施												①	
県教育委員会との定例会実施												④	
企業見学・インターシップへの協力												○	
家庭の教育力向上の取組み												○	
特別支援教育の理解促進												○	

2. 活動計画

(1) 継続事業

- ① 課外授業講師派遣
 - ・ 過去 6 年間の講師派遣実績分析、アンケート実施など
- ② 企業見学、インターンシップ協力
- ③ 教師と企業人との多様な交流
 - ・ リアル交流会
- ④ 海外教育事情視察
 - ・ コロナ禍に伴い、収束度合いを見ながら企画
- ⑤ 宿泊を伴う県外視察
 - ・ 海外教育事情視察の代わりではないが、教員もお誘いしての視察を企画
- ⑥ 教職員研修講師派遣
 - ・ 教職 11 年目の中堅教員研修の講師派遣、学校長研修講師派遣など
- ⑦ 社会体験研修協力
- ⑧ 家庭の教育力向上
 - ・ 親（従業員）に対する研修会など
- ⑨ 他経済同友会との交流
 - ・ 5 経済同友会教育担当委員会交流会
- ⑩ 講演会
 - ・ 時事に応じた講演会を企画
- ⑪ 勉強会
 - ・ 特別支援教育の理解啓発に関する企画
- ⑫ 他委員会との交流

(2) 新しい取組み

- ① 提言を実践する
 - ・ 教育界のニューノーマルの確認（対面、オンライン基準など）
 - ・ 提言の実践ポイントは下記表のとおり
 - ・ 担当グループ
A：①②、B：③④⑥⑦、C：⑤⑧&学び方、D：⑨⑩&学び方&大学関わり
- ② 学び方改革を推進する
 - ・ 学びに関する意識を調査する。（小・中・高校・大学・社会人）
 - ・ SDGs に関する意識を調査する。（小・中・高校・大学・社会人）
 - ・ 日本と海外での学校教育における「学び方の違い」を調査する。
（オンラインによる海外視察を行う）
 - ・ 学び方改革のポイントは何かを見出し、富山県全体に発信する。

③大学（高等教育機関）の教育問題に関わる

- ・富山の事例、日本の先進的事例、海外の事例を研究する。
- ・大学の地域社会に果たす役割、小・中・高校との関わりを整理する。
- ・大学（高等教育機関）まで範囲とするか。同友会としてやれることは何か。

文省	教委	地域	同友	方策	提言の実践ポイント(例)
	○	○	○	①	多様な交流機会をニューノーマルに沿って提案する。
○	○		○	②	教師インターンシップ先について、 <u>企業経営委員会と協力し</u> 、具体的な協力企業を募り、教育委員会に提案する。
		○	○	③	学校教育支援の一環として課外授業の講師拡充を行う。 専門分野の講義や事務の効率化アドバイスなど、企業人材（現役、OB 問わず）の協力できる分野を募る。 (<u>企業経営委員会に相談する</u>)
			○	④	課外授業講師派遣拡充について、方策③と同じ取組みを行い、学校に示す「 <u>講師リスト</u> 」を作成する。
	○		○	⑤	職業体験事業の推進のため、「 <u>子ども版ハローワーク</u> 」を構築する。例えば、体験プログラムに基づいた各企業 3 分のお仕事紹介動画をホームページに公開する。
			○	⑥	家庭でのふれあい機会の創出のため、働き方改革を推進する。 <u>人財活躍委員会と連携して実践する。</u>
	○		○	⑦	家庭の教育力向上について、従業員の子育てサポートや啓発講座の受講促進などに、 <u>会員企業がより積極的に取り組む</u> よう働きかける。(人財活躍委員会と連携)
			○	⑧	企業における <u>仕事参観の実施</u> について、方策⑤のお仕事紹介動画を含めて、しくみを作る。
	○			⑨	教育界のニューノーマルの確認を通して、提言内容とのギャップを明確にし、 <u>具体的な対策を提案する。</u>
	○		○	⑩	方策⑨と同様であるが、大学（高等教育機関）との交流を通して、その取組みを参考にし、提案内容に盛り込む。

3. テーマ別報告

○第12次教育問題委員会の活動一覧

年度	年月日	活動内容
2021 年度	4月20日(火)	第1回正副委員長会議（於：事務局会議室） ・今次委員会の活動方針・活動計画
	5月28日(金)	第2回正副委員長会議（於：事務局会議室） ・今次委員会の活動計画（グループ別）について
	7月7日(水)	第1回県教育委員会との意見交換（於：富山県民会館） ・富山経済同友会教育問題委員会提言について ・県教委の取組みについて
	7月8日(木)	第1回委員会（於：ホテルグランテラス富山） ・今次活動方針について ・富山県教育委員会との意見交換について（報告） ・グループ別活動計画について（グループ討議）
	9月9日(木)	5 経済同友会教育担当委員会交流会（新潟経済同友会主管）（於：オンライン） テーマ：『地方におけるこれからの人財育成と産学官の連携について』
	9月30日(木)	第2回正副委員長会議（於：オンライン） ・各グループ経過報告 ・委員会活動計画 について
	10月15日(金)	課外授業講師派遣制度に関する意見交換会（Bグループ） ・課外授業講師派遣制度に関するアンケート結果について ・課外授業講師派遣制度について
	11月12日(金)	第2回県教育委員会との意見交換（於：富山県農協会館） ・当委員会提言を踏まえた県教委の来年度以降の取組、協議事項等について
	12月20日(月)	第2回委員会（於：富山電気ビルディング） ・富山県教育委員会との意見交換（11/12開催）概要、今後の対応について ・各グループ 経過報告 ・今後の活動について
	1月17日(月)	オーストラリアクイーンズランド大学オンラインヒアリング（Dグループ） ・学生・生徒の学校での学び方の違いを比較する ・地方創生に資する大学間の波及効果とコラボ効果について学ぶ
	1月27日(木)	第3回委員会（於：オンライン） ・第3回文化スポーツ委員会：ボッチャ体験交流会のオンライン視聴
	3月30日(水)	第4回正副委員長会議（於：事務局会議室） ・各グループ経過報告 ・来年度活動計画について

年度	年月日	活動内容
2022 年度	4月27日(水)	第5回正副委員長会議（於：事務局会議室） ・今年度活動計画について
	6月13日(月)	第4回委員会（於：オークスカナルパークホテル富山） ・令和3年度活動総括について ・令和4年度活動計画について ・講演会「特別支援教育の理解啓発に向けて～子供を真ん中に置いた視点で考える目指す姿～」(講師：富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班 班長 山川俊幸氏)
	7月27日(水)	第6回正副委員長会議（於：事務局会議室） ・第5回教育問題委員会（8/25「第1回県教育委員会との意見交換会」：インターンシップ）について ・県外視察（9/29～10/1 青森・関西方面）について ・課外授業、研修講師派遣について ・会員定例会主管（10/18 講演会）について ・「第2回県教育委員会との意見交換会」（10月～11月開催予定：教育現場でのICT教育）について
	8月25日(木)	第5回委員会「第1回県教育委員会との意見交換」（於：富山県民会館） ・小中高の企業見学やインターンシップについて ・教職員のインターンシップについて
	9月29日(木)～10月1日(土)	第6回委員会「青森・関西視察」 視察先：おしごと体験広場キッズハローワーク、関西経済同友会、関西キャリア教育支援協議会、大阪府教育庁、大阪府教育委員会
	10月18日(火)	10月会員定例会（教育問題委員会主管）（於：ホテルニューオータニ高岡） ・講演会「データで読み解く『富山の人口問題』～なぜ企業経営者が鍵を握るのか～」(講師：㈱ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子 氏)
	11月4日(金)	5経済同友会教育担当委員会交流会（栃木県経済同友会主管）（於：オンライン） テーマ：『キャリア教育の充実について』
	11月29日(火)	第7回委員会（於：オークスカナルパークホテル富山） ・第6回教育問題委員会（青森・関西視察）報告 ・提言について ・活動報告書作成について
	1月17日(火)	第8回委員会「第2回県教育委員会との意見交換」（於：富山県民会館） ・教育現場でのICT機器活用促進とコンテンツ開発支援、ICT支援人材供給協力
	1月25日(水)	第9回委員会（於：オンライン） ・提言について ・活動報告書について
	3月22日(水)	第10回委員会（於：オークスカナルパークホテル富山） ・第12次委員会の活動の総括
	3月28日(火)	第11回委員会（於：富山大学）（第10回文化スポーツ委員会と合同開催） ・車いすバスケットボール体験交流会

年度	年月日	活動内容
その他		課外授業講師派遣
		教育講演会等講師派遣
		課外授業講師派遣制度に関する学校長アンケート実施（2021 年 5 月～ 6 月）
		「親子でチャレンジ小学生ワクワク体験教室」の受入れ（2022 年 8 月 20 日）
		県中堅教諭等資質向上研修（社会体験研修）の受入協力（2022 年 10 アンケート実施）
		関西経済同友会で高瀬委員長講演（2023 年 1 月 31 日）

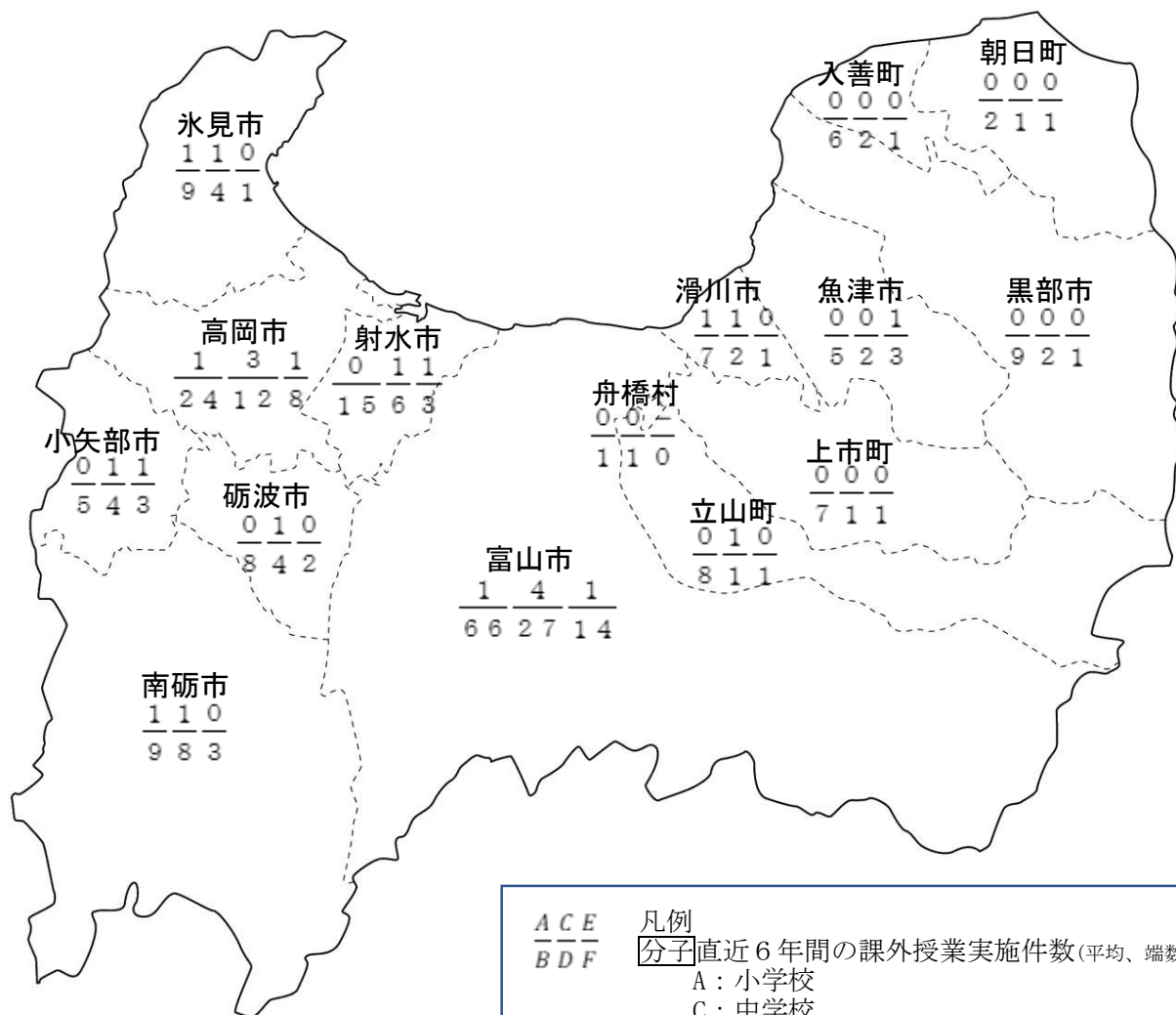
(1)継続事業報告

①子どもたちと直接接点を持つ取組み

・課外授業講師派遣

課外授業講師派遣制度の利用実態を分析するため、2015 年～2020 年の 6 年間の課外授業の実施件数を市町村別に集計した。結果は以下のとおり。

市町村内の直近 6 年間の課外授業実施件数（平均、端数切上）



$\frac{ACE}{BDF}$

凡例

分子 直近 6 年間の課外授業実施件数 (平均、端数切上)

A: 小学校

C: 中学校

E: 高等学校

分母 市町村内の学校数

B: 小学校

D: 中学校

F: 高等学校

【分析】

- ・全県的に利用した学校が少ない。
- ・その理由は？ 魅力がないのか？ 認知されていないのか？
- ・学校にアンケートを取り、もう一度初期の目的に戻って検討する。

【課外授業講師派遣】

課外授業講師派遣制度の一層の活用に向け、制度拡充を図るべく、2021 年度に小中高等学校（学校長向け）アンケート調査を行った。

＜アンケート調査概要＞

調査時期：2021 年 8 ～ 9 月

調査対象：小学校・中学校・高等学校の校長

結果概要：

- ・ 課外授業講師派遣制度の認知度は、小中高いずれも 75%以上と高い。
 - ・ 制度を認知している中学校長の 8 割以上、高等学校長の 5 割以上が制度利用の経験があると回答しているが、小学校長は 4 割弱に留まっている。
 - ・ 利用しない理由としては、小学校は「教育課程との関係」「制度利用の不知」「内容が高度」が上位を占めているのに対し、中学校・高等学校では「他団体・企業等への依頼」「学校行事との関係」「教育課程との関係」が上位を占めている。
 - ・ 講演内容への希望は、小中高いずれにおいても「キャリア教育（働くこと、職業について）」が最も高い割合を占めている。次いで、小学校においては「夢を持つこと」、中学校・高等学校においては「これからの社会で求められること」の割合が高かった。
- ・ 課外授業拡充について
上記アンケート調査ならびに、課外授業の実施を通して 3 つの課題が明らかとなった。

①課外授業の可視化をはかる

5 W 1 H を基本に課外授業のメニュー化を進める

②講師陣の拡充をはかる（同友会ならではのラインナップづくり）

年齢、性別、職種、地域性などの要素を鑑み多様性のある講師陣とするために同友会会員へむけた課外授業講師依頼アンケートを実施する

③小中高の各学校むけのメニューづくりをはかる

小中高の各グレードによって課外授業に求める中身が変化してくる

その要請に的確に対応するために以下の例のように具体的なメニューの幅を拡充する

（例）

小学校：体験型の就労体験（源のマス寿司）

中学校：14 歳の挑戦と絡めた講演

高等学校：インターンシップなどのよりレベルの高い就労体験

(1) 継続事業報告

① 子どもたちと直接接点を持つ取組み ・企業見学、インターンシップ協力

2021年6月、県内の県立高校より、普通科におけるキャリア教育の一環として、生徒の体験授業（就業体験）を実施するので、受入に協力いただける企業を紹介してほしい旨依頼があった。

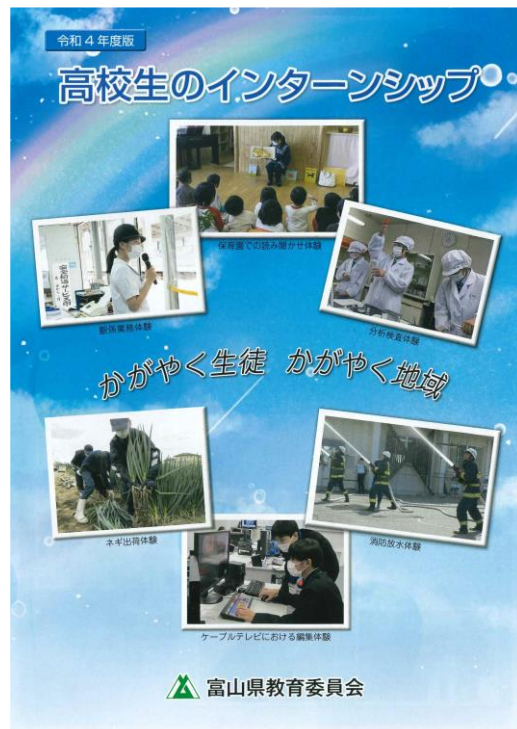
この依頼を受け、教育問題委員会の委員あてに、受入れ協力可否についてアンケート調査を実施したところ、15の会員企業より受入可能との回答があった。

<調査概要>

調査時期：2021年6月

調査対象：教育問題委員会 委員47名

結果概要：15名の会員（15社）より、受入れ（受入検討）可能との回答があった。



紙すき体験
酪農体験

インターンシップとは

生徒が在学中に自分の学習内容や進路などに関連した就業体験を行うことをインターンシップといいます。産業の現場など様々な場所で就業体験を行うことは、高校生にとって、将来の進路や生き方を考えるうえで有意義なことです。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、実施が難しいにも関わらず、対策を講じ、多くの企業で受け入れていただきました。

関係の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

活動の意義

- 実際の知識や技術を学ぶ
- 学校の学習と職業との関係についての理解を深める
- 自己理解を深め、確かな職業観・勤労観を育てる
- コミュニケーション能力の向上を図る
- 地域及び職業・産業に対する理解を深める

測量体験
先進農業における農業体験

活動内容

【農業・水産系の内容例】

- 花の施肥や水やり
- 野菜の収穫や産物のせん定
- 家畜の一般管理
- 河川域での捕獲調査 など

鮮魚の神経締め体験

【家庭・看護・福祉系の内容例】

- 保育実習
- 病院実習、薬剤師体験
- 食事、入浴、車椅子の介助
- 食事の準備や軽作業の補助
- レクリエーションの実習 など

小学生対象読物体験補助
介護補助体験

【流通系の内容例】

- 販売、商品陳列、包装等の実習
- 接客応対、広告、販売促進
- 清掃、商品整理、梱包し など

接客業務体験

【工業系の内容例】

- 材料、部品、製品の運搬
- 簡単な組立てや解体作業
- 製品の検査、測定業務
- 電子回路のはんだ付け作業
- 製品の検査分析作業 など

自動車整備体験
製品検査体験

事前指導

- 目的、心構えの確認
- 実習先企業に関する学習
- 活動計画、日程の確認
- 業務内容の説明と指導
- 挨拶やマナーの指導
- 安全指導

事後指導

- 自己評価
- 個別面談指導
- 報告書の作成
- 発表会の実施

「社会へ羽ばたく17歳の挑戦」

キャリア教育に寄与する取組をメニュー化して生徒に提示し、高校3年間で1つ以上体験するよう推進しています。

富山の企業魅力体験(バスツアー 電力会社の見学・体験)
アカデミック・インターンシップ 大学での模擬授業・実習体験

「高校生職業教育プログラム推進事業」

各校の職業教育が充実するよう支援しています。

(1)とやまの高校生チャレンジ人材育成オンラインワークショップ
富山県にゆかりのある、県内外で活躍する企業人等による、オンライン講演およびグループ討論を行います。

(2)職業教育プログラムの推進・改善
「キャリア教育推進委員会」や「キャリア教育連絡協議会」において、高校生のインターンシップ等キャリア教育の充実について協議します。

インターンシップ体験率の推移 (富山県の公立高校)

年度	体験率 (%)
H27	73.9
H28	72.9
H29	74.5
H30	75.2
H31	82.8

R2・R3: 国の調査が中止のためデータなし

生徒の声

○ 地元企業の事業内容や地域との関わりを知ることができた。身近なものに、地元企業が関わっていることがわかった。

○ インターンシップを通して、改めて「思いやり」の大切さを学んだ。この「思いやり」の心をいつまでも忘れないように持ち続けたいと思った。

○ 学校内での実習や講演では感じることのできないことを、自分の五感で体験できたことがとても刺激になった。

○ 富山の高い技術力を、身をもって感じた。また、自分の進路選択の一つの参考になった。

○ 時がたつにつれて皆が集中し始め、実験が終わった後の達成感は何とも形容しがたいものだった。実験をする将来の自分を思い描く、大学生が今から楽しみにもなった。

○ 取材を通して、人と人が関わる仕事の中でコミュニケーション力はとても大切であることを実感した。

○ さまざまな人と過ごしたこの就業体験では、学校では学べないことや、初めて体験することがたくさんあり、自分の将来のためにすごく貴重な時間だったと思った。

○ 自分の知りたいことに対して熱心になったのは初めてだった。

○ ただ指示に従うだけでなく、効率良く作業を進めるために、頭を使って考え、行動することの大切さと難しさを学ぶことができた。

事業所の声

○ コロナ禍の影響で、人数や見学内容などに制限があったが、高校生に地元企業の事業内容を知ってもらう良い機会となった。

○ 今回の派遣は後できっと自信につながると思う。今後充実した高校生活の中で好きなこと、やりたいことをしっかりと見つけてほしいと思う。

○ 今回の現場実習で学んだことを活かして、地域経済を支える立派な社会人になってほしい。多くのことを学ぶためには、多くのことを経験することが必要。何事にも精一杯挑戦してほしい。

○ 生徒の印象は大変良く、意欲や関心が高かった。次年度も実施するとしたら是非受けたい。

○ 事前事後学習や毎日の実習記録など、多くの時間をかけて学習に取り組んでいることがよく分かり、意欲的な態度に好感がもてた。

○ 指導員に考えが深まり、できることが増えていく感覚を、私だけでなく多くの生徒の皆さんも感じておられたようでとても嬉しく思った。

(1)継続事業報告

- ②子どもたちに最も身近な教師と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み
・教師と企業人との多様な交流

多様な交流として、教育及びSDGsの重要な要素である「誰ひとり取り残さない」と、「スポーツを通しての健全な育成」の両面を考え、下記のような視点で交流を考えた。

- (1)特別支援教育の理解促進を図る
- (2)スポーツ精神に学ぶ機会をつくる

折りしも、(2)に関しては、文化スポーツ委員会にて障がい者の代表的スポーツ「ボッチャ」の東京パラリンピックメダリストの藤井選手の講演とボッチャ体験会があり、これに共催として相乗りし、教員の方々にも参加を促した。結果として、教諭等が13名オンライン参加した（詳細は他の委員会との交流資料参照）。

残念ながら、(1)に関しては、教師との交流として実施できなかったが、勉強会として「特別支援教育の理解促進に向けて～子どもを真ん中に置いた視点で考える目指す姿～」と題して、県教育委員会より講師を招いて会員の啓発を図った（詳細は勉強会資料参照）。今後、教師との交流において積極的に特別支援教育をテーマとすることに期待している。

(1)継続事業報告

②子どもたちに最も身近な教師と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み ・海外教育事情視察

第9回令和元年（2019年）9月15日～23日の後、コロナ禍により第10回は延期のままとなっている。また、この第10回を一つの区切りとし、最終開催と考えている。次期（第13次教育問題委員会：2023～2024年度）には開催の方向で、今次（第12次）の間に大まかな計画までは作成したい。

- ・訪問先候補としては イギリス、デンマーク、スイス、フランス、ドイツなど
- ・行程は日本の出入りや機内泊含め 8泊9日程度
- ・時期としては8月下旬～9月中旬あたりが候補
- ・参考までに、第1回～9回までの訪問国は下記のとおり

	日程	視察先
1	H20. 8. 8～8. 15	フィンランド・デンマーク
2	H21. 8. 2～8. 8	中国（瀋陽・上海・台北）
3	H23. 8. 21～8. 29	ドイツ・スイス
4	H25. 8. 18～8. 26	ドイツ・オーストリア・チェコ
5	H27. 9. 20～9. 27	米国（ニューヨーク・ボストン・ワシントン）
6	H28. 9. 18～9. 24	フィンランド・デンマーク
7	H29. 8. 16～8. 22	シンガポール・台湾
8	H30. 9. 17～9. 24	米国（シアトル・サンフランシスコ）
9	R1. 9. 15～9. 23	ドイツ・ベルギー・フランス

(1) 継続事業報告

②子どもたちに最も身近な教師と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み
・宿泊を伴う県外視察

第6回委員会として、2022年9月29日（木）から10月1日（土）にかけて、「キャリア教育・インターンシップ最前線の視察」をテーマに、青森・大阪視察を実施した。

視察には、小・中・高等学校・特別支援学校の教員5名に参加いただいた。



【日程】 2022 年 9 月 29 日（木）～10 月 1 日（土）

[illegible]

【参加者】

- ・委員 6 名
- ・教員 5 名（小学校 1 名、中学校 1 名、高校 2 名、特別支援学校 1 名）

【視察先ごとの目的】

2022年9月29日～10月1日 青森・大阪方面のインターンシップ・キャリア教育関連視察

視察先	目 的	職業体験施設見学		STEAM教育 関連施設見学	歴史・文化 施設見学	キャリア教育全般			ICT教育	教育提言	関西経済同友会の組織運営			関西キャリア教育支援協議会（情熱教室）					水の都 大阪一望
		幼・小学生	中・高生	全世代	全世代	地域社会連携	小・中 インクルーブ	高校	コンテンツ	「学習啓発」から 「社会実装」まで （社会実装で活用する） （活用実装への活用）	組織作り	運営の工夫	デジタル化	設立経緯	歩み・推移	評価 利用者の声	協力会員	今後の 取組み	自由行動
9/29 弘前キッズハローワーク		○																	
9/29 津軽藩ねぶた村					○														
9/30 関西経済同友会											○	○	○						
9/30 同（教育問題委員会）									○										
9/30 関西キャリア教育支援協議会														○	○	○	○	○	
9/30 大阪府教育庁・大阪市教育委員会						○	○	○											
10/1 大阪科学技術館				○															
Web おしごと博物館（各自閲覧）		○	○	○					○										
10/1 あべのハルカス																			○

【視察の概要】

1 日目：青森

1 日目は、弘前市のおしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会と津軽藩ねぶた村を訪れた。

<おしごと体験広場キッズハローワーク>

おしごと体験広場キッズハローワーク（2019 年度キッズデザイン賞優秀賞消費者担当大臣賞を受賞）を運営する（特非）SEEDS NETWORK の大西晶子理事長より、キッズハローワークの活動内容についてご説明いただいた。

キッズハローワークは、子どもたちに職業体験プログラムを提供し、仕事の対価（仮想通貨）を与え、子どもたちは獲得した仮想通貨を消費して遊ぶという、就労から消費までのサイクルを経験させる事業。「子どもを育てることは、町を、地域を、未来を創ること」という理念の下に実施しており、職業体験に際しては、地域で実際にその職業を生業としている大人たちが直接子どもたちと接することで、子どもたちに、「働くこと」だけではなく、地域の魅力を知ってもらうことを目指しているとのこと。



大西晶子氏を囲んで

<津軽藩ねぶた村>

続いて、一行は津軽藩ねぶた村を訪れ、大型ねぶたの実物展示や津軽三味線の生演奏を鑑賞した。



2日目：大阪（1日目）

2日目は、関西経済同友会の事務局及び教育問題委員会、関西キャリア教育支援協議会の事務局である関西生産性本部、大阪府教育庁、大阪市教育委員会と懇談を行った。

<関西経済同友会事務局>

（一社）関西経済同友会事務局 常任幹事・事務局長の廣瀬茂夫氏より、同友会の組織や今年度の活動状況についてご説明いただいた。

提言を出しっぱなしではなく、提言の実行をフォローするための委員会を設置して活動していること、委員会活動においては、会員企業の社員が「スタッフ」として活動をサポートしていることなどが特徴的であった。



廣瀬 茂夫 氏

<関西経済同友会教育問題委員会>

令和2・3年度教育問題委員会及び令和4年度こどもの未来委員会委員長の堀晋一氏（三井物産(株)執行役員関西支社長）より、令和4年2月の提言『「学校任せ」から「社会全体で共創する」初等教育への転換』の内容及び、提言実行のために設置した「こどもの未来委員会」の活動内容をご説明いただいた。

学業だけではない「多様な経験を通じた能力開発」の場が初等教育段階では重要であり、教育現場任せではなく、教育現場と教育行政と企業が連携し、三位一体となって取り組んでいく必要があるとのこと。



堀 晋一 氏

<関西キャリア教育支援協議会（関西生産性本部）>

（公財）関西生産性本部専務理事・事務局の長小宅誠司氏に関西キャリア教育支援協議会の活動内容をご説明いただいた。

同協議会は、関西生産性本部、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所、大阪科学技術センター、連合大阪が協力し、大阪府・市との連携の下、小中高等学校におけるキャリア教育を支援するために設立された。各組織が行っていた教育



小宅 誠司 氏

現場への社会人講師派遣、職場見学、職場体験、教員研修会などのキャリア教育支援活動を「情熱教室」と称して一本化し、教育現場が産業界・労働界に求めるニーズと、産業界・労働界が教育現場に提供できるシーズに合った支援・協力を行っているとのこと。

<大阪府教育庁／大阪市教育委員会>

大阪府教育庁（市町村教育室主任指導主事 森山伸治氏）及び大阪市教育委員会（指導部初等・中学校教育担当次席指導主事 坂田浩之氏）より、キャリア教育の取組みについてご説明いただいた。

コロナ禍で職場体験などの従来型のキャリア教育が実施できないため、企業をアドバイザーに起用した課題解決型授業やオンライン職場体験など新しい生活様式に応じたキャリア教育を実施しているとのこと。



森山 伸治 氏



坂田 浩之 氏

3日目：大阪（2日目）

3日目は、大阪科学技術館とあべのハルカスを訪れた。

<大阪科学技術館>

大阪科学技術館は、全国的にも珍しい科学・産業技術に特化した科学館で、企業や研究機関20社8団体が出展し、最新の科学技術を体験型の展示物で学ぶことができる施設。一行は子どもたちに混じって、様々な展示を見学した。



SDGsの展示を見学



大阪科学技術館前にて

<あべのハルカス>

あべのハルカスでは、ハルカス300（展望台）を訪れ、秋晴れの大阪の眺望を楽しんだ。

3日間の視察では、キャリア教育の最前線に触れるとともに、参加した教員と親睦を深めることができ、大変有意義な視察となった。



ハルカス300にて

(1)継続事業報告

②子どもたちに最も身近な教師と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み ・教職員研修講師派遣

令和2年度より富山市教育委員会から、中堅教諭等資質向上研修の「社会に学ぶ講話」として対象者を幾つかのグループ（15～20名程度）に分け、社会人講師から学びたいとの依頼があった。これに複数名の講師を派遣したところ、受講者からも好評を得たため継続し、他の自治体の教育委員会にもお勧めすることとした。また、講師は教育問題委員会委員にお願いし、経験は問わないこととした。ここに委員会で説明した例を記載する。

（教職員研修講師派遣の実績は、別冊「課外授業講師派遣制度活動レポート」参照）

<令和2年度 中堅教諭等資質向上研修 社会に学ぶ講話（富山市教育委員会）概要>

日時：令和3年2月17日（水）14:00～

場所：富山市教育センター

受講者：小学校教諭 25名 中学校教諭 15名 養護教諭 3名 栄養教諭 1名
計 44名

日程：

14:00～14:05 日程の説明及び講師紹介

14:05～16:20 社会に学ぶ講話

※質疑応答を含めて60分とする。

※講師には同じ内容の講話を二度お願いし、受講者を入れ替える。

《前半》 14:05～15:05

移動・休憩 15:05～15:20

《後半》 15:20～16:20

講師：

- ・アイティオ(株) 代表取締役社長 伊東 潤一郎 氏
- ・(株)スカイインテック 専務取締役 高瀬 幸忠 氏
- ・(株)島田商店 代表取締役 島田 好美 氏
- ・(株)フクール 代表取締役 福崎 秀樹 氏

受講者からの感想（一部抜粋）：次頁参照

受講者の感想から

企業が求める人材の土台を築く一端を、我々教育の現場が担っていることが分かった。やはりここでも「主体性」という言葉がキーワードとして取り上げられており、今の社会には自ら考えて行動できる力をより強く求められており、日々の教育にその視点を盛り込んで児童生徒の指導にあたりたい。

寄り添って丁寧に教えることも大切であるが、先行き不透明な現代社会において、「学び方」を教えることの大切さや「選択」することの重要性について学んだ。また、「テーマをもつ」ことや「ご縁に感謝する」ことの大切さ等の実体験を通したお話を通して、自分を見つめ直したいと感じた。

選択の重要性についてお聞きし、自分でもここ最近同じようなことを感じるが多かったので、共感することができた。今後子供を指導する際、選択する場面を設定すること、挨拶を大切にすることを意識していきたい。

経営者の方の好奇心の旺盛さ、行動力の高さに驚いた。どうしたら、そのような大人になれるのか考えた時に、失敗を恐れずに行動したこと、努力したその過程を認めていける教師でありたいと思った。高瀬さんに紹介された「選択が人を成長させる」という言葉がとても印象に残った。子どもたちにも、自分で決断できるように、十分な情報そして、十分な時間を与えられる教師でありたいと思った。

高瀬さんから、富山の小学校で学んだ経験が、後に富山に就職するきっかけになったという話を聞き、学校での経験が子どもたちの将来に大きな影響を及ぼすことに気づいた。そして、もっと富山のよさを子どもたちにも伝えていきたいと感じた。



経営者としての理念には教育に必要な理念と重なる点が多くあると感じた。また、スカイインターネットの企業として社会に貢献していこうとする姿勢から、自身も教育を通して社会に貢献できる児童を育てていきたいという思いをもつことができた。

「学び方」を教えることができる教師でありたいと思った。高瀬さんがこれまで大切にされてきた言葉や人との出会い、守るべきは何か・何をコストと捉えるかという考え方に感銘を受けた。また、社員の成長にとってどうすべきかを考えた異動を通した育成や複数人で仕事を担当する（出来る人一人に任せない）ということも、学級運営や教職員の校務分掌を考えていく上でも大切なことだと感じた。

(1)継続事業報告

②子どもたちに最も身近な教師と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み ・(教職員) 社会体験研修協力

まずは他経済同友会の先行事例に学ぶこととし、第7回経済同友会教育担当委員会交流会(2019年6月13日開催)において、教員による「民間企業への長期体験社会研修」の事例発表を行った群馬経済同友会に概要を調査した。

1. 照会内容

第7回経済同友会教育担当委員会交流会における「長期社会体験研修」について

(1) この取組みは現在も継続して実施しているか

(2) (1) で継続されている場合、

①派遣者は毎年あたり何名か

②受入れ先は貴会会員様 所属企業と推察いたします。相違無いか

③研修受入れに際し要する費用に関し、その負担はどうされているか
(取組みのスキームと併せてご教示いただきたい)

④実施に際し、同友会と教育委員会とはどのように協議をしているか

(3) (1) で継続されていない場合

①継続されていない状況は「終了」「一時休止」のどちらに該当するか
あるいは、他の状況か

②継続されていない理由

③今後の見通しについて

※具体的には、貴会として再開(形式の見直し等も含めて)されたい意向をお持ちである、あるいは当初の目的を達したため一旦の区切りとし、次のステップに向けた取組みを検討中(あるいは実施中) など

2. 回答内容

(1) 取組み自体は現在も継続されている。ただし、本事業は群馬県教育委員会が主体の事業(平成12年度より実施している)であり、群馬経済同友会は「県教委との交流の一環」として協力するというスタンスである。

・実務上は、受入れ先企業は県教委(担当:県総合教育センター)が手配している。

ただ、集まりが悪い場合に同友会へも相談がある(R2、R3年度は相談があった)

・同友会では相談があった際、教育担当委員会を中心に照会のうえ、1社程度を県教委へ紹介している

(2) ①派遣者(研修受講者全体)は毎年5、6名程度とのこと

②受入れ先(同友会からの照会企業)は会員所属企業である

③県教委の事業であり、費用負担等の詳細は把握していないとのこと

④県教委からの依頼・相談に基づき協力する形式とのこと

また、2021 年 11 月 12 日開催の県教育委員会との意見交換会の場において、県教育委員会より、教職 11 年目の教諭を対象とした「中堅教諭等資質向上研修」の研修項目「職場体験」の受講者受入れの協力依頼があったため、教育問題委員会の委員を対象に、協力可否に関するアンケート調査を実施した。

調査結果の概要は下記のとおり。現在、受入可能と回答があった会員企業（12 社）と、県教育委員会において、2023 年度からの研修受入れに向け調整が行われている。

<県中堅教諭等資質向上研修（職場体験研修）の概要 ※県作成資料より抜粋>

趣旨	社会の幅広い人々との交流により対人関係能力等を高め、社会の構成員としての視野を広げ、より高い人格的資質を備える契機としたいと考えている。 学校外の施設等での研修を通し顧客対応などを経験することから、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力等の資質を伸長することをねらいとしている。
対象	採用から 10 年を経た県立高校、県立特別支援学校の教職員
研修期間	令和 5 年 7 月上旬から 11 月上旬の平日 2 日間（なるべく連続する 2 日間）
研修内容の一例	社内見学・施設説明、報道等の業務体験、製品製造作業、接客準備・接客業務、清掃・点検業務、各種教室イベントの運営・実演、チラシ折り込み・発送作業 他

<アンケート調査概要>

調査時期：2022 年 10 月

調査対象：教育問題委員会 委員 52 名

調査概要：

- ・職場体験受入れ可能との回答があったのは 12 名（12 社）。
- ・受入人数は、12 社合計で 45 名
- ・12 社が想定している業務内容は、ビル管理体験、広告の企画製作体験、農業体験、ショールーム来客対応、営業訪問、介護補助業務など多岐にわたる。

(1) 継続事業報告

③ 子どもたちに最も身近な親と接点を持ち、間接的に子どもたちと関わる取組み ・ 家庭の教育力向上

富山県教育委員会との定例会の中で、生涯学習・文化財室が主管する「とやま親学び」講座などの紹介を受けたが、委員会としてのメッセージを発するなどは行っていない。



とやま親学び

親学び講座 = 親を学び伝える学習プログラム(通称「親学びプログラム」)を活用し、親の役割や子供とのかわり方を学びます。

富山県教育委員会では、家庭の教育力の向上を目指し、「親学び講座」の普及・啓発に取り組んでいます。

・ しつで悩んでいるんだけど…
・ 最近、子供への声のかけ方が難しい…
・ 子供の成長について、他の親と情報交換したい…
・ 子育てのヒントがあれば知りたい。

子育てについて語り合おう!

よくあるエピソードを題材に、子育ての悩みや問題点を語り合うことで、子供とのかわり方や親としてのあり方を学びませんか!

親の学びが子供の成長に!

親同士のつながりネットワークづくり!

● 親学び講座とは

- ・ 講義形式ではなく、グループで交流しながら学び合う、参加型の学習です。
- ・ 参加者が子育てを振り返り、話し合う中で、気づきを促すことをねらいとしています。
- ・ 進行役は、保護者の講座経験者です。

● 実施する機会

PTA研修会、保護者懇談会、就学時健診、入学説明会、子育てサークル、職場の研修会、地域の教養講座 等です。

● 参加者からは

- ・ 子供への接し方の参考になった。
- ・ 子育ての考え方が広がった。
- ・ 他の人も同じ悩みをもっていることがわかり、楽になった。
- ・ 思っていることをたくさん話せてよかった。
- ・ いろいろな人と知り合うきっかけになった。

● アンケート結果では

「とてもよかった」「まあまあよかった」と答えた人は全体の **98%**!

■ 親学び講座の流れ

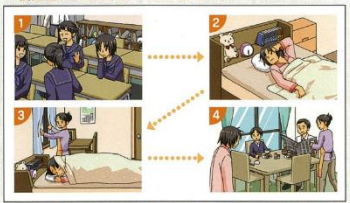
- (1) はじめに
講座内容や進め方について説明
- (2) エピソードの読み上げ
ワークシートや紙芝居
- (3) グループワーク
①一人一人が考え、ワークシートに記入
②グループ内で意見交換、話し合い
- (4) グループごとに発表(全体で共有)
- (5) 終わりに
活動の振り返り

「親学びプログラム」のエピソード(事例)より

親となる準備期	乳幼児期	児童期	思春期	祖父母・シニア	地域
● ある日の親子の会話から	● 忙しいお母さん、話を聞いてほしい太郎君	● 健太郎君とお父さん	● 本当にかわっているの?	● 二人のシニアの方の体験から	● 子育て支援の輪を広げよう!
● ついイライラしてしまうお母さん	● 子ども同士のげんかに親がかかわり	● お父さんの出番?!			

※どのエピソードを使うかは、参加者に応じて選択してください。

▼ 紙芝居「本当にわかっているの?」



ワークシート「忙しいお母さん、話を聞いてほしい太郎君」



私たち、各中学校区の「とやま親学び推進リーダー」が、PTAや学校と協力して、講座実施のお手伝いをします。

ワークシート等のダウンロード先

県のHP「子育てネット」とやま
<http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/>

親学び講座 問い合わせ先

富山県教育委員会 生涯学習・文化財室
 〒930-8501 富山市新総曲輪1-7
 TEL 076-444-3435

(1)継続事業報告

④会員の啓発・資質向上の取組み

・他経済同友会との交流「5 経済同友会教育担当委員会交流会」

富山、群馬、新潟、栃木県、中部の 5 経済同友会の教育担当委員会が、意見交換を通じて連携と交流を深めることを目的に 2013 年度より持ち回りで開催している「5 経済同友会教育担当委員会交流会」に参加した。

【2021 年度】第 8 回交流会（幹事：新潟経済同友会）

<開催内容>

テーマ：地方におけるこれからの人財育成と産学官
の連携について

日 時：2021 年 9 月 9 日（木）14:00～16:00

会 場：オンライン開催

概 要：

当会からは委員 12 名、教育現場から県立高等学校の教諭 4 名が参加した。

オープニングでは新潟同友会 阿部尚義教育問題委員会委員長、山本善政筆頭代表幹事より開会挨拶があり、阿部委員長は「5 年・10 年先の地方の発展や子供の成長に対し、経済界はどのように教育界と接点を持つべきか考えていきたい」と述べ、山本筆頭代表幹事は「信条として、人財育成はあらゆる業務に優先すると考えている。産学官が連携し、地方でのよりよい人財育成について議論を深めたい」と挨拶した。

次に、新潟大学創生学部澤邊潤准教授より「新潟大学創生学部フィールドスタディーズについて」と題し事例紹介があった。同学部では学生が早い段階から社会を見て、何を学ぶべきかを意識づけるため、1 年次から新潟県内の自治体・民間企業と連携したフィールドスタディーズ（学外学修）を必修科目とするなど、魅力的かつ選ばれる教育の提供や、社会との対話による人財育成のエコシステム確立を目指して取り組んでいると紹介した。

続いて、本交流会のテーマについて、澤邊准教授、新潟同友会特別幹事で NSG グループ会長の池田弘氏、教育問題委員で㈱広報しえん代表取締役の西嶋弘重氏をパネリスト、阿部委員長をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われた。澤邊准教授は、若年層人口の減少が都市部より早く進行する中、地方の高等教育機関の存在意義が問われているとし「生徒、保護者、社会に対し“ここで学ぶ”ことのメリット・価値を如何に PR できるかが重要」と語った。池田氏は経済人としての関わりとして、自社の魅力を高めていくことが必要とし「若い人に“この会社でなら、この社長となら（働いてみたい）”と思ってもらうことが重要である」と語った。西嶋氏は魅力ある会社づくりと社内改革・体制づくりが求められているとし「各社が人財採用を最重要課題と位置付け、全方位的な活動ができるか、“採用力の向上”が不可欠である」と訴えた。

最後に、新潟同友会 吉田至夫代表幹事が「オンライン形式ではあったが内容の濃い議論ができ大いに参考になったと思う。来年度は、できればリアルによる交流ができることを願っている」と挨拶され閉会となった。



【2022 年度】第 9 回交流会（幹事：栃木県経済同友会）

<開催内容>

テーマ：キャリア教育の充実について

日 時：2022 年 11 月 4 日（金）13:30～15:30

会 場：オンライン開催

概 要：



当会からは委員 16 名、教育現場から県立高等学校の教諭 2 名が参加した。

オープニングでは栃木県同友会 松下正直筆頭代表幹事より、「VUCA 時代では、今までの常識では対応が難しくなっており、経済界が教育界をサポートすることが求められている」と開会挨拶があった。

次に、「キャリア教育の充実」をテーマに 2019 年度から 2021 年 5 度までの各同友会の活動報告及びパネルディスカッションが行われた。

中部同友会からは、教育を考え行動する委員会委員長の九鬼綾子氏より、中学生・高校生向けの出前授業のほか、2020 年度からは大学生を対象に、より深く考えをめぐらすことに重点を置いた少人数・対話型のプログラムを実施していると紹介があった。

当会からは、高瀬委員長が教育問題委員会の活動を報告した。中でも、海外教育事情視察は、他の同友会にはない取り組みであり、他のパネリストから質問が寄せられるなど、参加者の関心を惹いた。

群馬同友会からは、次世代育成委員会副委員長の大森昭生氏より、講師カタログを作成し、中学・高校に配付して社会人講師派遣事業の普及啓発を行っていること、高等教育機関と包括連携協定を結んで、連携を強化していることなどについて説明があった。

新潟同友会からは、教育問題委員会委員長阿部尚義氏より、出前授業は小中高のみならず専門学校や大学も対象としていること、出前授業ではドローンの実演が人気を博していることなどの説明があった。

栃木県同友会からは、社会貢献活動推進委員会委員長の名村史絵氏より、小中高への講師派遣に加え、2011 年に大学コンソーシアムとちぎと協定を締結し、県内すべての高等教育機関に講師を派遣できる仕組みづくりを行ったと説明があった。

最後に、パネルディスカッションコーディネーターの作新学院大学経営学部特任教授杉本育夫氏が、「社会が大きく変革する中、キャリア教育を進めるためには、学校対企業、学校対自治体といった“学校対 1 つの組織”ではなく、企業、経済同友会、商工会議所、国、自治体、地域、保護者などのすべてを総動員して連携していかななくてはならない」と訴えた。

閉会挨拶では、次回開催地となる中部同友会の九鬼氏が「来年は名古屋で皆様にリアルでお目にかかれることを楽しみにしている」と述べ、閉会となった。

(1)継続事業報告

④会員の啓発・資質向上の取組み

・講演会：「データで読み解く『富山の人口問題』～なぜ企業経営者が鍵を握るのか～」

教育問題委員会主管の令和4年10月会員定例会が10月18日（火）、ホテルニューオータニ高岡で開催され、株式会社ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャーの天野馨南子氏が「データで読み解く『富山の人口問題』～なぜ企業経営者が鍵を握るのか～」と題して講演を行った。会員約140名（オンライン視聴含む）が参加した。



最初に天野氏は、統計データを用いて、富山の出生数が加速度的に減少している現状を説明したうえで、「夫婦が子どもを持たなくなったので人口減少している」というアンコンシャスバイアスがあるが、むしろ、富山の夫婦当たりの子どもの数は微増しており、人口減少の主因は若い女性が就職を機に富山からいなくなることにあると語った。

そして、今の未婚の若者、特に男性においては、正社員の共働きを夫婦の理想像とする者が急増し、家族観に大きな意識変化が起こっていることを指摘し、従来の専業主婦世帯を



想定した古い家族観で少子化対策を行うことに疑問を呈した。

最後に、若い女性の就職による県外転出をメインテーマにしなければ、富山の人口の未来はなく、若い女性に選ばれるよう企業経営者が働き方を変えていかなければならない。富山の少子化対策の鍵を握るのは企業経営者の皆さんだと参加者に熱いメッセージを送り講演を締めくくった。

(1)継続事業報告

④会員の啓発・資質向上の取組み

・勉強会：特別支援教育の理解促進

SDGs の最も重要な考え方である「誰ひとり取り残さない」を実践するため、特別支援教育の現状の理解促進を目的に、第4回教育問題委員会（令和4年6月13日）において講演会を開催した。

演題「特別支援教育の理解啓発に向けて～子供を真ん中に置いた視点で考える目指す姿～」

講師 富山県教育委員会県立学校課 特別支援教育班 班長 山川俊幸 氏

山川氏ははじめに、特別支援教育とは、子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援することを目的とし、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う教育であると説明した。

そして、少子化で子どもの数が減る中で、特別支援教育を受ける子どもたちは増えている現状を示したうえで、一人一人の教育的ニーズに的確に応えることができる多様な学びの場を提供することが今後目指していく姿であると述べた。

次に、特別支援学校の卒業生の就職状況を示し、障害のある子どもたちの自立や社会参加を実現するためには、切れ目ない一貫した支援が必要であり、そのためには、企業と学校、家庭といった子どもたちの関係者をつなぐ横のつながりと、小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学、大学から就労先までのライフステージをつなぐ縦のつながりの両方が大切だと説いた。

終わりに、障害者が積極的に参加・貢献できる社会は、誰もが相互に人格と個性を尊重し合い、一人一人が多様な個性と能力を発揮できる社会であり、こういった社会をつくることによって、一人一人にとって究極的に良い状態、ウェルビーイングをもたらすことができると述べて講演を締めくくった。



(1)継続事業報告

④会員の啓発・資質向上の取組み

・他委員会との交流：文化スポーツ委員会「ボッチャ体験会」オンライン視聴

令和4年1月27日に開催された第3回文化スポーツ委員会「ボッチャ体験会」（文化スポーツ委員会委員13名参加）の様子を、第3回教育問題委員会としてオンライン配信し、委員5名、教諭等13名が視聴した。

はじめに、パラメダリストの藤井友里子選手を講師に招いた講演会が開催された。藤井選手は、「電動車椅子によって、できることが増え生活が変わった。日本代表に選ばれて世界が広がった」とボッチャとの出会いを振り返り、東京パラリンピックを目指し競技に専念する中、「経済面でのサポートがメダル獲得につながった」と企業からの支援に感謝した。そして、「多くの方にボッチャを体験してもらい、誰にでもできる気軽さと戦術の奥深さを感じてもらいたい」と講演を締めくくった。



続いて、文化スポーツ委員会の参加者がコートに移動し、3人ずつのチームに分かれて実際にボッチャ競技を体験する様子を視聴した。ボールが目標まで届かなかったり、強く投げすぎてしまったりと、思い通りにいかない投球の難しさに苦戦しながらも、藤井選手からアドバイスを受け、チームで作戦を練るなど白熱した試合を展開。優れた投球には大きな拍手が出るなど、参加者は和気あいあい

とした雰囲気の中でボッチャを楽しみ、パラスポーツの魅力を十分に体感していた。

《オンライン聴講者（教諭）からの感想》

研修会では、講師の藤井さんの「やってもらったことに対して、『ありがとう』の言葉を伝えることで、社会で生きていけると思いました。」という言葉が心に残りました。

すべての人がつながり合う上で、「ありがとう」の言葉の大切さを改めて実感することができました。今回は、このような研修の機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。

(2)新しい取り組み報告

①提言の実践における活動報告

・富山県教育委員会との活動報告

前次教育問題委員会の提言の実践に向け、2021年度は7月7日と11月12日、2022年度は8月25日と1月17日に富山県教育委員会との意見交換を行った。

<参考>第11次教育問題委員会提言（概要版）

【教育提言】 子どもたちの「生きる力」を育む社会の創造 富山経済同友会 2021/3

1. 提言の趣旨

少子高齢化・人口減少、価値観の多様化、技術革新、グローバル化、コロナ禍・・・
急激に変化する時代の中で、次代を担う子どもたちは、様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に「生きる力」を自ら高めしていくことが必要

企業人が求める人間像 それぞれの人生を自ら切り拓く「力」を備えた人間
公徳心、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、リーダーシップ、向上心、粘り強く取り組む力、新たな価値を創造する力、自分らしい生き方や成功を追求する力・・・

「生きる力」とは・・・ 知・徳・体のバランスのとれた力
予測困難で先行き不透明なこれからの時代、社会がどんなに変化しようとも、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、それぞれの人生を自ら切り拓いていくために必要な「力」

子どもたちの「生きる力」を育む社会の実現を目指して、発信・行動していきます！

2. 教育問題委員会の活動と課題

課外授業講師派遣事業 より**多くの子供たちが受講**できるよう、事業のさらなる浸透を図っていくことが必要
講師スキルの研鑽により**充実した授業**を実施し、事業の質的向上を図っていくことも重要

海外教育事情視察 **「教師力」の向上**に意義のある事業だが、コスト面、時間的制約、参加人数などが課題
⇒企業人との深い交流が貴重な気付きにつながるような、**新たな研修・交流事業を検討**

教育担当委員会交流会 各地域の特色ある教育事業の視察を通じて、**教育現場と企業が連携**することの大切さや、**教師の企業就労体験**を行う研修の必要性を認識

教師と企業人との交流 **教師の負担感の軽減**を図り、交流事業をさらに進展させるとともに、**民間ノウハウ**を教育現場に落とし込んでいくことが必要

コロナ禍で再認識 子どもたちや各家庭において学校がいかに大きな存在であるか、その役割を再認識
ICT技術を教育界にも積極的に取り込み、有効に活用できる環境整備が喫緊の課題

3. 今後の方向性と具体的な方策

教師 学校	子ども	親 家庭	ICT
■「教師力向上」の機会の充実 ■教育現場の「働き方改革」の推進	■企業人による課外授業の充実・促進 ■より多くの職業体験機会の提供	■「伝えよう“親心”推進月間」の充実 ■親としての成長機会の提供	■遠隔授業の環境整備 ■ICTツールの活用促進
方策① 教師と企業人等との多様な交流機会の創出 【教委、地域、同友会等】	方策④ 課外授業講師派遣の拡充 【同友会】	方策⑥ 家庭でのふれあい機会の創出 【同友会等】	方策⑨ ICT機器の積極的な活用 【教委】
方策② 教師の中長期インターンシップの実施 【文科省、教委、同友会等】	方策⑤ 職業体験事業のさらなる推進 【教委、同友会等】	方策⑦ 家庭の教育力向上に対する取り組み 【教委、同友会等】	方策⑩ ICTツール活用のためのリテラシー向上支援 【教委、同友会等】
方策③ 経済界や地域社会による学校教育への支援 【地域、同友会等】		方策⑧ 企業における「仕事参観」の実施 【同友会等】	

<意見交換会で決まったこと>

方策① 教師と企業人等との多様な交流機会の創出
【教委、地域、同友会等】

- ・企業人との交流による学びの機会を教員研修の一環として提供
- ・異分野との多様な交流を推進するための検討組織の設置

①海外教育事情視察が終了した場合、後継となる交流事業を継続する。

→どこへ行ったかではなく、誰と行きどのような時を過ごしたかが重要、複数日を共に過ごせる交流が重要である。

②定期的な意見交換会を（テーマを絞って）年2回行う。

→インターンシップ、教師の多忙化解消のための支援など

方策②

教師の中長期
インターンシップの実施

【文科省、教委、同友会等】

- ・ 教員研修として、4週間程度の企業インターンシップや、1年間の長期企業研修の実施
- ・ 教員養成課程への企業研修の導入

① 教員のインターンシップの受入れに協力する。

→ 受入れ可否・期間など、教育問題委員会内でアンケートを取る。

(経過の中で同友会全体に拡大を検討する)

方策③

経済界や地域社会に
よる学校教育への支援

【地域、同友会等】

- ・ 教材開発・学習プログラム提供や学校運営への協力など、企業の多様な人材・ノウハウの活用
- ・ 教師の多忙化解消のための支援

① 企業側のサポート効果を高め、よりよい教育環境を整えるには、企業と学校双方の認識や理念、価値観などを共有することが重要である。

→ リコーの事例（企業版ふるさと納税のスキームを活用した企業からの人材派遣）は企業側にもメリットがある。

方策④

課外授業講師派遣の
拡充

【同友会】

- ・ 講師リストの充実により、県全域の教育サービスとして提供できるよう整備
- ・ より多くの学校で課外授業が実施されるよう働きかけ
- ・ オリエンテーションの充実による講師スキルの研鑽
- ・ 双方向対話型授業やグループワーク型授業の実施

① 学校が活用しやすい課外授業メニューを作成する。

→ たたき台を作成し、意見交換などを通じてブラッシュアップする。

方策⑤

職業体験事業の
さらなる推進

【教委、同友会等】

- ・ 企業が提供する体験プログラムを児童生徒が選択・応募する「子ども版ハローワーク」の構築（小・中学生）
- ・ 複数回のインターンシップや、就労体験の実施（高校生）

方策⑧

企業における
「仕事参観」の実施

【同友会等】

- ・ 従業員家族対象の「仕事参観」や小・中学生対象の「企業見学会」の実施

① 小学生対象の企業見学会に協力する。 中学高校についてもインターンシップの受入れに協力する。

→まずは委員会内で協力企業を募集する。

(県東部については既に協力応諾企業が 15 社ある)

②青森、秋田のこどもハローワークの視察を実施する。

方策⑥	家庭でのふれあい機会の創出 【同友会等】	・従業員のワークライフバランスの充実 ・PTAなど子育てに関する活動への参加促進
方策⑦	家庭の教育力向上に対する取り組み 【教委、同友会等】	・公德心などを育む家庭教育を学校、企業など地域ぐるみで支援 ・「社内子育てアドバイザー」等の選任、企業内研修の充実

①当会より「とやま親学び推進協議会」にオブザーバーを派遣する。

②富山県の施策に積極的に参加する。

→所属企業の従業員を対象とした研修会や「親学び講座」のオンライン受講など参加しやすい工夫をする。

方策⑨	ICT機器の積極的な活用 【教委】	・児童生徒1人に1台の端末配付、家庭で利用できる環境の整備 ・授業用ツールの充実、コンテンツの活用促進による授業の質の向上
方策⑩	ICTツール活用のためのリテラシー向上支援 【教委、同友会等】	・教師のICTツール活用能力の向上、子どもたちのICTリテラシー育成 ・コンテンツの開発支援、ICT支援員等の人材供給への協力

①ICT 活用について教育現場での悩みが多いことを認識した。

→リコーの事例（企業版ふるさと納税のスキームを活用した企業からの人材派遣）を研究し、教育現場への適用ができないか。

(2)新しい取り組み報告

②学び方改革の視点からの活動報告

・オンラインヒアリング

学校法人浦山学園と連携し、在豪州 キーンズランド大学（University of Queensland : UQ）を対象にオンラインでのヒアリングを実施。ヒアリングに際しては別途配の質問趣旨に沿った形での意見交換の形式を採用。特記事項は下記の通り。

<実施概要>

日 時 2022 年 1 月 17 日（月） 17:00～17:45（オンライン後に聴講者向け要約を実施）

場 所 学校法人浦山学園

出席者 元 UQ 教授 Jessica Gallagher 氏（現 The University of Adelaide 副総長）

富山経済同友会教育問題委員会 尾城副委員長、浦山委員

学校法人浦山学園富山福祉短期大学 国際観光学科 齋藤准教授、学事部 三宅氏

富山経済同友会事務局 吉川主席経済交流員

（教育問題委員会委員：10 名がオンライン視聴）

ヒアリングのねらい

1 「学生・生徒の学校での学び方の違いを比較する」

学生・生徒の教室内での学び方は、国によって多少の違いがあることが広く知られている。当会はこの違いを学び、富山県に対し、県が大学（総合・単科）のような高等教育機関の在り方を見直す事を支援していく事を目指している。

当会は、こうした支援を通じて学生の就職支援の一助にしてみよう事を考えている。当会が彼らが就職した後に社内の関係者と競争し合うというよりは他の社員と協業する事を前提としており、当会の提言を通じて学生たちが会社組織に帰属した後はどういった働き方をする事が好ましいか、といった提言に繋がる可能性があると考えている。

2 「地方創生に資する大学間の波及効果とコラボ効果について学ぶ」

地域間の連携は、学生の視野を広げるとともに教室では学べないことを学ぶ機会を与えるものと考えられる。この観点から、地域社会・経済界との連携、カリキュラム構成・構築、学位、若い世代（ここでは中学校・高等学校）との交流・連携、連携による効果について議論を深めていきたい。

<特記事項>

- ・ UQ の目指す理想は、自ら起業出来る資質の学生輩出。
- ・ この目的に向けた学び方が工夫されており留学生の比率も多く、複数の視座の関係者との協業経験を学びのプラットフォームとしている。
- ・ 地元の協賛企業（industrial partner）との連携が好例であり、就職を目的としたプログラ

ムではなく当人のキャリア形成を目的とした内容を連携骨子に据えている。具体的には、当該企業と共同タスクに取り組み、インターンシップ的に経験を積めるプログラムを学部毎に揃えている。又、同タスクに参加した事を契機に、当該企業に就職する学生もいる。タスクの内容は様々だが学生に対してはデータ解析やリサーチ業務から着手してもらう事が多い。この過程を通じてビジネスの専門性や多文化との交流等を得られる仕組みとしており、全過程を修了した学生は可視化出来る結果(=卒論)も用意出来る形となる。

- ・又、こうした学生がクラスにいる事で在籍する他の学生に及ぼす良い影響も確認出来ている。

- ・大学側は一連の対応基盤となる教育課程の策定(カリキュラム・デザイン、カリキュラム・ディベロップメント)に注力しており、この内容が大学により異なる。UQ は上述せるが教育課程の柱。

- ・起業家精神の育成に必要となる資質の一つはグローバルな視野を学生に経験させる事。UQ の考えるグローバルな資質とは、海外との接点のみを対象としたものではなく「(自分と)違う見方・意見の人と意見交換ができる」力を指す。

- ・一方でコロナの影響は甚大で、企業との接点を含めキャンパス外の関係者との交流が制約されてしまう。

- ・「少子・高齢化に加え有望人材の他県への流出」といった富山の課題は理解出来る。労働人口の確保は豪州に於いても重視されており、学生のみならず教授陣の流出が増えるとカリキュラムの均一化に繋がり UQ の目指すグローバル教育/多面教育が困難となってしまう。

- ・換言すると、こうした課題を解決しカリキュラム維持を図る事が褪せる事のない教育課程となり、SDGs に資する教育指針になり得る。

～ On Line 会議の風景写真 ～



(2)新しい取り組み報告

③大学と経済界の連携強化の視点からの活動報告（富山大学より）

学校と経済同友会との連携活動について

現状：

- ・生徒（中学生や高校生）が社会に目を向け、自己のキャリア形成の方向性と関連づけて主体的に考え、自ら設定した課題を解決することが必要である。
- ・高等学校に総合的な探究の時間が開設され、1月28日には富山大学と県教育委員会の共催で、学習成果を報告する高校生の発表会が開催される。
- ・学校現場と経済同友会とが連携して教育活動を行う際、具体的な活動方法について慣れていない学校も多いことが予想されるため、大学等が支援することが有効である。

考えられる具体的な活動（案）

1. 探究活動教育やプログラミング教育の支援

探究的課題解決やプログラミングをテーマにして、高校生の探究活動発表会やプログラミング大会を行う。企業等から課題提案を行っていただき、その審査や指導助言なども行っていただく。

参考：現在、下記の大会やコンテストが開催されているが、高校生の探究活動やプログラミング教育に関する発表会や大会は少ない。

①小学生対象

富山県小学生プログラミング大会 2022（11月26日開催）主催：全国新聞社事業協議会

②中学生対象

富山ジュニアロボコン大会（11月12日開催）主催：富山県中学校産業教育振興会

③高等学校対象（主に専門学科）

ミラコン(2023年1月20日) 主催：北日本放送、富山県工業教育振興会

<https://www.knb.ne.jp/miracon/>

2. 企業等からの情報提供のコンテンツ化

企業等の持つ情報を、学年・教科・単元別に整理して、教員が授業で活用することができるデジタルコンテンツ、教員の研修に役立つようにデジタルコンテンツを開発して、学校で活用できるようにする。

考えられるトピック ・職業の選択方法 ・将来に向けた学び ・職業と仕事の内容

注：学外の方が学校で講演や学習支援をしていただく際に、生徒の発達段階に応じた情報提供をしていただいた方がいい。そこで、大学が学校、企業等と情報共有して、企業等が提供できる内容を整理して発達段階に応じた内容に教材化したり、ニーズとシーズを調査したりする支援を行い、企業等からの情報提供が容易になるようにする。

4. 次期教育問題委員会に向けて（アドバイザー及び委員より寄稿）

子どもたち主体の学び

高瀬 幸忠

第12次教育問題委員会では「学び方改革」をテーマの一つに掲げて取り組んだ。私は教育関係者との会議などで「教え過ぎない」ことをお願いしている。つまり、子どもたちが社会生活や授業を通して感じた「興味」が「学び」を後押しするからである。自分で感じた興味を自分で掘り下げ、自分で何らかの結論を見出した学びは、子どもたちの健やかな成長に欠かせない。

令和5年1月31日の北日本新聞紙上に、新しい教育の概念「アメージングカレッジ」が埼玉県東松山市に開校する記事が載っていた。何を勉強するのか。教科書は使うのか。全て子どもたちが決める「自由過ぎる学校」である。子どもが好きなことをするのと放任とは違う。教師には学びの種まきをする役割が求められると岩崎千佳校長（41歳）は話す。この取組みを無条件に肯定するものではないが、次期委員会ではこのような取組みにも学んでもらいたい。

アドバイザーを仰せつかって

池田 安隆

教師のなり手不足が深刻化している。一般企業では働き方改革が進んでいるのに、教育の現場は程遠い状態で、長時間労働など当たり前の世界らしい。加えてコロナ禍の中、オンライン授業やICT技術を導入した授業が不可欠となっており、教員の方々の労苦は並大抵なことではない。若い教員ならまだしも、年配の世代はついて行くのも大変だと思う。教育問題委員会のアドバイザーを仰せつかってまもなく一年、同友会に入会し20年以上になるが今までこの委員会の経験はなかった。教育問題などには場違いな人間であるが、子供の教育はとても大切なものであることは承知している。最近特に、教育現場が大変なことになっていることを知る機会が新聞等の報道で増えた。委員会のアドバイザーなどとても難しい役割だと思うが、教育はまさしく日本の将来を左右する最重要事項であるだけに、無関心ではられない。

一年を振り返って

稲田 祐治

2022年度から、教育問題委員会のアドバイザーをさせていただきました。

この一年、出前授業にも参加させていただきました。その中で私が感じたことは、子供たちが自分の将来に不安を感じながらも、学業やスポーツに取り組み、自分なりの夢を持っているのではないかということでした。夢を描けるということは長い人生へのモチベーションの維持という観点からとても大切なことです。教育問題委員会として中高生に教えられることは限られてはいますが、我々経済人として、日本だけにとどまらない、世界に羽ばたく人材を育てていく、そのお手伝いができるような委員会活動が必要ではないかと思っています。

取り組んでほしいアンコンシャス・バイアスの払拭 森田弘美

教育

問題委員会では年間を通して県教育委員会と積極的に意見交換を行っている。問題は、意見の隔たりが予想以上に大きい。例えば「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」は、「規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考える」ため、20年に及ぶ歴史を有する。にもかかわらず「社会教育か、職業教育か」という根本的な相違が未だにある。委員会からも「社会教育の場」という意見が相次いだ。また、県内全域の14歳が毎年参加するにもかかわらず、アンケート等のエビデンスがない。また、受け入れ企業はカリキュラムや担当者（メンター）を吟味しているが、教育委員会からは「若い社員を充てるのはいかなるものか」と。

今、地方の企業であっても働き方改革やダイバーシティ、女性活躍が求められ、少子高齢化、労働力不足にも直面している。地方にも魅力的な仕事はあり、自己実現できる場もあるのだが、知らない。おそらく教育現場も同様で、「地方に自己実現できる仕事がない」は、子ども時代から無意識のうちに植え付けられた意識・偏見のように思える。委員会には、そうしたアンコンシャス・バイアスを払拭する取り組みを課題に挙げてほしい。

教育と経済界の橋渡し

尾城 敬郎

教育問題委員会の活動は広範囲且つ深遠なものでしたが、コロナ禍を逆手に取り時間とWeb会議の活用が図れました。特に豪/クイーンズランド大学との同会議は新たな試みであり学校教育と地域経済との連携を共有頂きました。又、参加した各人も含め英語教育について自らの振り返りの機会にもつながりました。富山経済界としても同大学と同様の取り組みが出来る事を願っております。

デジタル人材育成のための新たな教育体制

富山大学長 齋藤 滋

我が国はデジタル分野で大きく遅れてしまったので、国は経済力を向上させるため、デジタル人材育成に手厚い支援を行なう事を計画している。その基本的な考えは、人材育成のため地域中核大学や高等専門学校、産業界、国立研究開発法人等が共同で人材供給プラットフォームを設立し、大学と産業界が互いに協力しあい、質の高いデジタル教員を増やし、その結果、地方においても優れたデジタル教育を実践し、デジタル人材（大学生、高専生）を増加させる計画である。富山経済同友会様におかれましては、社内に優秀な人材を雇用されておられ、小・中・高等学校の教育の充実に貢献されてきましたが、新たに高等教育機関の教員教育にも御協力いただき、地域でデジタル人材を育成し、これらの人材を雇用していただき、経済発展に寄与していただきたいと願っています。どうか宜しくお願い申し上げます。

子供たちのために

土屋 誠

2021年に課外授業講師派遣事業に関するアンケートを実施した。課外授業を通して現場の先生方の意見も聞くことができた。その際に感じた事は現場が求める事項が何かをしっかりと把握しないと私たちがやろうとすることが押し付けに終わってしまうという事であった。

いざ民間の協力を得ようとしても、誰に相談すれば良いかわからない。現場としてはもっと違う取り組みを大切にしたい。どんなものを提供してもらえるかもわからない。せっかくお世話になるなら教育現場が希望するコンテンツを選べればと思うのも当然であろう。

子供たちのためにという想いであるのなら、少しずつでも意見を交わし、前進していければと願う。

先人に学ぶ

四十物 直之

教育は国家百年の大計と言われています。教育の大切さは皆さんもよく理解されていますが、今の日本は経済一辺倒で、心の豊かさや、道徳、思いやり、誰かのために生きる、という事を疎かにしている様に思います。富山県出身の瀬島龍三氏の祖国再生の中に、教育とは、立派な人、立派な日本人、立派な国際人を作ることだ！と書かれてありました。立派な人とは知・徳・体・情の備わった人。立派な日本人とは日本の歴史・伝統・文化を理解し、行動できる人。立派な国際人とは相手の国のことを理解し対処できる人。と書かれてあった。まさにその通りで、そういう人を作るのが教育なのに、何か間違った方向へ行っている様に思うのは私だけじゃないと思います。国も左翼的なマスコミに何も言えないし、自分の非は棚に上げて他者を非難、契約違反と法律無視の徹底的な利益追求、マナーの欠如、繰り返される領海侵犯、そんな国が昔からある。彼らの歴史認識とは、彼らの主張する判断に、承服せよ！という要求のことです。正しい歴史教育を子供たちに教えないと、本当に日本はゆでガエルになります。

合掌

当会の使命として

大橋 聡司

高瀬委員長には経済界が取り組むべき教育問題について深掘りした事業を立案、実行していただき、第12次教育問題委員会は大変内容の濃い委員会活動であったと思っています。

コロナ禍にあって、海外教育事情視察は実施できませんでしたが、代替となる国内視察を行うことにより、この事業の目的である教員と企業人との深い交流ができました。

節目の第10回海外教育事情視察は第13次委員会で実施することになると思うのですが、今後とも形態は変われども教員と企業人との深い交流が図れる事業をしていくべきだろうと思います。

かつては、教育問題委員会は「学校教育の在り方そのものに踏み込まない」というスタンスのもとに活動を続けてきました。

しかしながら、学校教育が抱える課題は教育の根幹を揺るがすまでになり、第6次委員会からは学校教育を取り巻く様々な問題に対して向き合うようになってきました。

社会が激的に変化する中、教育の発展なくして日本社会の発展は考えられません。

今後とも当会は、経済人の立場から教育問題について考察し、地方公共団体や学校に対し各種方策を提言し、教育の諸問題の解決に向けて積極的に行動していかなければならないと思います。

中学生から校長先生まで

高林 幸裕

伝統ある教育問題委員会での検討や教育委員会との議論は専門的であり、あまり戦力になれなかったと自戒しています。

一方、中学校への課外講師として2度お話しさせて頂く機会があり、「働くということ」というテーマで、「好きなことはあるかな？」から職種の話まで織り込んだ資料を作りました。伝えたいこと満載の資料だったので、東京から帰省していた自分の中学生の孫2人にもプレゼンし、熱心に聞いてもらいました。

驚いたのは、高瀬委員長から、「県立学校校長研修会の講師をお願いしたい」と依頼されたことです。富山電気ビル大ホールのステージ壇上から「私の仕事は自分の仕事をなくすこと」というテーマで、富山県立高校や支援学校の60人の校長先生に「期待以上の話を聞かせてもらおう喜び」のサブタイトル通り、自分が行ってきた経営改革について、全社員向けメルマガなどを交えて90分間熱く語らせて頂きました。

思いがけない晴れやかな機会を与えて下さった高瀬委員長に感謝致します。



「中堅教諭等資質向上研修」と次期に向けて

東澤 善樹

富山経済同友会に入会して10年余りの中、今回初めて教育に関する委員会に所属させていただきました。もっともこの間は、新型コロナウイルス蔓延の真ただ中であり、リアルな活動で印象に残ったのは標記の活動で、かつとても貴重な機会でありました。

私からすれば、先生という存在は年上でも年下でも「先生」であって、そうした方々に向けてお話しすることは非常におこがましく感じ、また緊張するものでしたが、高瀬委員長からのご助言をいただき、自分の経験や考え方を自分の言葉で話し、さらにそれがご出席の先生方にも伝わったという実感を持てたことはこの上なく嬉しい場面でした。

次期に向けては、やはり富山経済同友会の多様な人財が持つ多様な知識や経験を、将来を担う子どもたちの教育に携わっておられる先生方や、あるいは子どもたち直接に、いろいろな同友会事業や方法で伝えていくことが大切なことと思います。この2年間、誠にありがとうございました。

教師たれ！

牧田 和樹

学校の先生を「教師」か「教員」のどちらで呼ぶべきか。文字通り、師は先生を意味し員よりも尊敬に値するが、何故か世間では教員と呼ばれている。

一般社会から見れば教員の労働環境は特異だと感じる。公務員であることにも起因するが、安定した平等主義に漬かっているため切磋琢磨する意欲がわき起こり難い。また、校内には業務推進上のヒエラルキーが存在せずそれ故ガバナンスも機能しないし、業務内容も個人完結型で能力の有無を問わず新人もベテランも同じパフォーマンスを求められるのだ。その結果、失敗を恐れるが故に前例主義の風土が形成され、同質の価値観の中での居心地のよさを作り出している。

教員を教師に変えるには、この同質の価値観から抜け出すことが必須で、換言すれば、異質な人と交流し目を覚ます以外に方法はない。当会が実施している「海外教育事情視察」や「教師と企業人との交流」のねらいはここにある。

教育について思う事

森 弘吉

委員会に配属される前から、私自身も小・中・高等学校のPTA役員の経験をさせていただき、学ばせていただきました。教育は、子供達のみならず、自身も含めて、大人達にも大きな学びに繋がります。また、経営における社員教育にも通じると感じます。

昨今の教育現場を見渡せば、私が学んだ時代の教育とは大きく異なります。特にITの発展に伴ってSNS等、スマホに関わる問題が散見される時代となりました。また教育においては、ITリテラシーのみならず、投資等のマネーリテラシーの教育も必須になりつつあります。本委員会においては、教育現場の先生との懇親や研修、教育委員会の方々を通じて、

問題や解決の方法を一緒になって考えた事が貴重な経験となりました。

次期委員会でも引き続き、現場の最前線におられる教職員の方々とご一緒出来る機会を増やしていただき、共に問題を考え、解決のヒントとなる場を設けていただく事を希望します。

子供が怪我をしたとき

山野 昌道

もうずいぶん前になりますが、富山の「14歳の挑戦」をテーマにしたドキュメンタリーを、NHKの全国放送で見ました。番組の後半で、少年が工場の就業体験で怪我をしてしまい、仕事から帰ってきた父親にそのことを報告する場面がありました。

私が「ああ、親爺が学校に文句を言いに行く展開か」と思って見ていると、その父親は「お前の不注意で工場に迷惑をかけた。一緒に工場に謝りに行こう」と言ったのです。

何でも学校のせいにする親が増えてるように思います。あいさつができないのも、友達とけんかするのも、部活動で怪我をするのも学校のせいにする。勉強を教えるのが本分である先生方がそれ以外のところで苦勞されていることが、委員会で勉強してよくわかりました。

少年の父親の対応は素晴らしかったと思います。当委員会がずっと主張している家庭教育の重要性は今後益々高まると思います。

根本的な教育改革を (教育に関し日頃から思うこと)

遊道 義則

政治と教育の関係については諸説あり、また個人の価値観によって解釈の仕方も異なって然るべき、昭和100年を迎えようとする昨今、私達が最も大切にしなければならない「日本人の心」の教育が、戦後の教育改革によって完全に骨抜きにされてしまったと私には思えてなりません。権利や平等などが声高に主張され、忍耐や羞恥などは何処かに忘れ去られていると感じることもあり、政治不信も少子化も経済停滞も、様々な問題は教育を変えなかったことが原因だと私は考えています。

大人が大事なことを決めずに先送りしてきた結果が、私もその一人ですが、私たちの素晴らしい日本の、素晴らしい子供たちの未来をつまらないちっぽけなものにしている気がして、唯々申し訳なく思っています。

根本的に教育を変えなければこの国の将来はあり得ず、せめてもの償いとして、伝えられる限り、できる限りで子供たちの可能性を引き出す一助を担ってまいり所存です。

おわりに

本活動報告書のまとめとして、アドバイザー・委員の皆様から、教育に関し日頃から思うこと、今次活動の振り返り、次期（第13次）教育問題委員会に取り組んでもらいたいテーマ、その他エールを送りたいことなどを寄稿していただいた。是非とも次期委員会では、本活動報告書に耳を傾け参考としていただければ幸いである。

さて、今次はグループ分けを行って活動の活性化を図ったが、委員会発足当初からいきなりスタートしたことは拙速だったと感じている。1年目からではなく、2年目にテーマを絞って分科会的に活動してもらったらよかったと反省している。副委員長・委員の皆様には少々過度な負担をおかけしたことを、この場を借りてお詫び申しあげたい。

教育問題委員会は当会の中でも最も歴史のある委員会であり、変わらずぶれずに諸問題に取り組んできたと思っている。「子どもたちの健やかな成長」を願い、「教育関係者との交流を通してお互いの成長」を誓い、「日本の教育システムの根幹にある問題」にも心を寄せ、今後とも様々な活動や提言を行う集団であり続けると思っている。富山経済同友会の皆様には、当委員会への積極的なご参加をお願いし、活動報告の結びとしたい。

【添付資料】

- ・ 課外授業講師派遣実績
- ・ その他の講師派遣実績

【添付資料】

課外授業講師派遣実績

<令和3年度>

(25校49名)

No.	開催日	学 校 ・ 対 象	講 師	内 容
1	R3. 6. 3(木)	砺波市立出町中学校 3学年(213名)	山野 昌道 氏 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「未来を生きる」
2	R3. 6. 17(木)	砺波市立出町中学校 2学年(228名)	稲垣 晴彦 氏 (北陸コカ・コーラボトリング㈱ 取締役会長)	「仕事を通して学んだこと」
3	R3. 6. 30(水)	富山市立北部中学校 全学年(474名)	遊道 義則 氏 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ、生きるということ ～知っている・できる・やる～」
4	R3. 7. 7(水)	高岡市立牧野中学校 2学年(86名)	牧田 和樹 氏 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
5	R3. 7. 8(木)	富山市立城山中学校 2学年(73名)	牧田 和樹 氏 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
			久郷 慎治 氏 (㈱久郷一樹園 代表取締役)	「働くことについて」
			大橋 聡司 氏 (大高建設㈱ 取締役社長)	「働くこと 学ぶこと」
			高林 幸裕 氏 (北電産業㈱ 取締役社長)	「働くということ」
			伊東 潤一郎 氏 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「働く事と幸せに生きる事」
			高瀬 幸忠 氏 (㈱スカイインテック 取締役社長)	「働くことの意義」
			島田 好美 氏 (㈱島田商店 代表取締役)	「社会に学ぶ14歳の挑戦」
			福崎 秀樹 氏 (㈱フクール 代表取締役)	「AI時代を生き抜く！」
6	R3. 7. 15(木)	富山県立富山商業高等学校 3学年(275名)	尾城 敬郎 氏 (三菱商事㈱ 北陸支店長)	「社会に踏み出す為に」
7	R3. 7. 16(金)	片山学園高等学校 1学年(8名)	伊東 潤一郎 氏 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「働く事と幸せに生きる事」
8	R3. 9. 15(水)	富山県立雄峰高等学校 3学年(112名)	牧田 和樹 氏 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
9	R3. 9. 25(土)	富山県立魚津高等学校 1学年(160名)	大橋 聡司 氏 (大高建設㈱ 取締役社長)	「働くこと 学ぶこと 生きること」
10	R3. 9. 29(水)	入善町立入善中学校 2学年(102名)	牧田 和樹 氏 (㈱牧田組 取締役社長)	「働くこと」
11	R3. 10. 7(木)	富山第一高等学校 2学年(387名)	牧田 和樹 氏 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
12	R3. 10. 13(水)	富山県立小杉高等学校 1学年(160名)	山野 昌道 氏 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「企業が求める人物像、3つのポイント」
13	R3. 10. 27(水)	高岡市立志貴野中学校 2学年(148名)	在田 吉宏 氏 (㈱アリタ 取締役社長)	「将来のために 今やるべきこと」
			神崎 直志 氏 (三井物産㈱ 理事北陸支社長)	「あなたはなぜ働くのですか？ なぜ勉強するのですか？」
			張田 真 氏 (ハリタ金属㈱ 代表取締役)	「社会人としての自分の「生き方」」
			山野 昌道 氏 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「企業が求める人物像、3つのポイント」
14	R3. 10. 28(木)	高岡市立高岡西部中学校 2学年(113名)	村尾 于尹 氏 (㈱村尾地研 取締役会長)	「君たちに期待する」
15	R3. 11. 9(火)	射水市立中太閤山小学校 6学年(59名)	遊道 義則 氏 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持とう、追いかけてよう、そして 叶えよう～夢と目標と目的と・・・～」
16	R3. 12. 3(金)	高岡市立南星中学校 2学年(172名)	荒井 洋平 氏 (㈱宝来社 代表取締役)	「問題解決の方法としてのデザイン」
			碓井 一平 氏 (Labore㈱ 代表取締役)	「自由に生きるために必要なお金」
			尾山 謙二郎 氏 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「生きる力」
			京田 憲明 氏 (㈱富山市民ブラザ 代表取締役)	「公務員として働くということ」
			土屋 誠 氏 (日本海ガス㈱ 取締役社長)	「あなたは将来、どのような仕事に 就きたいですか？」
			羽根 敬喜 氏 (富美菊酒造㈱ 代表取締役)	「働くこと ～私の社会人としての歩み について～」
			開 章夫 氏 (昭和建設㈱ 代表取締役)	「まちをつくる建設業と災害対策」
			若林 健嗣 氏 (日本海電業㈱ 代表取締役)	「通信と防災、デジタルツインの社会」

17	R3. 12. 10(金)	富山市立山室中学校 1 学年 (187名)	遊道 義則 氏 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持とう、追いかけてよう、そして 叶えよう～夢と目標と目的と・・・～」
18	R3. 12. 14(火)	富山県立富山高等支援学校 全学年 (52名)	上田 信和 氏 (砺波工業(株) 取締役社長)	「夢に向かって付けたい力」
19	R3. 12. 16(木)	富山県立雄山高等学校 1 学年 (150名)	川合 紀子 氏 (有)ステップアップ 代表取締役)	「働くこと、学ぶこと」
20	R4. 2. 2(水)	富山大学人間発達科学部附属小学校 5, 6 学年 (139名)	牧田 和樹 氏 (株)牧田組 取締役社長)	「未来をつくるために」
21	R4. 2. 9(水)	射水市立大門中学校 1 学年 (253名)	遊道 義則 氏 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持とう、追いかけてよう、そして 叶えよう～夢と目標と目的と・・・～」
22	R4. 2. 10(木)	富山市立城山中学校 1 学年 (94名)	牧田 和樹 氏 (株)牧田組 取締役社長)	「なぜ働くの？」
23	R4. 2. 18(金)	富山市立奥田中学校 1 学年 (213名)	市森 友明 氏 (株)新日本コンサルタント 取締役社長)	「学習の目的を知って 努力を楽しく しよう」
			島田 好美 氏 (株)島田商店 代表取締役)	「13歳の学び 『働く人に学ぶ』」
			高林 幸裕 氏 (北電産業(株) 取締役社長)	「働くということ」
			土屋 誠 氏 (日本海ガス(株) 取締役社長)	「あなたは将来、どのような仕事に 就 きたいですか？」
			廣田 大輔 氏 (十全化学(株) 取締役社長)	「奥田中学校 1 年生のみなさんへ」
			山崎 義明 氏 (株)山崎製作所 取締役社長)	「働くことの意味」
24	R4. 2. 25(金)	高岡市立高陵中学校 2 学年 (102名)	在田 吉宏 氏 (株)アリタ 取締役社長)	「将来に向けて、今やるべきこと ～社会との関わり方を考える～」
			張田 真 氏 (ハリタ金属(株) 代表取締役)	「社会人と考える自分の「生き方」」
			開 章夫 氏 (昭和建設(株) 代表取締役)	「働くということ」
25	R4. 3. 4(金)	富山市立速星中学校 1 学年 (331名)	遊道 義則 氏 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持とう、追いかけてよう、そして かなえよう～夢と目標と目的と～」

課外授業講師派遣実績

<令和4年度>

(17校31名)

No.	開催日	学 校 ・ 対 象	講 師	内 容
1	R4. 6. 7(火)	高岡第一高等学校 1 学年 (186 名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「自分の夢の見つけ方～高校生活で意識したいこと～」
2	R4. 6. 15(水)	富山市立奥田小学校 6 学年 (74 名)	島田 好美 (㈱島田商店 代表取締役)	「仕事の話～いろんな仕事に出会ってみれば～」
3	R4. 6. 15(水)	高岡市立牧野中学校 2 学年 (86 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
4	R4. 6. 20(月)	高岡市立戸出中学校 2 学年 (106 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「働くとは」
5	R4. 6. 24(金)	富山市立興南中学校 2 学年 (89 名)	荒井 洋平 (㈱宝来社 代表取締役)	「働くことの意義と心構え」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「働くことの意義と心構え」
			辻井 益雄 (㈱富花 取締役会長)	「働くことの意義と心構え」
6	R4. 6. 24(金)	舟橋村立舟橋中学校 2 学年 (40 名)	伊東 潤一郎 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「働くとは」
7	R4. 7. 13(水)	富山商業高等学校 3 学年 (273 名)	石橋 隆二 (㈱石橋 代表取締役)	「社会貢献としての仕事および働くうえで必要な資質・能力」
			市森 友明 (㈱新日本コンサルタント 取締役社長)	「仕事は、社会貢献とお金の両立。そして、そのための学習」
			碓井 一平 (Labore㈱ 代表取締役)	「富商の伝統は社会で役立つのか。ほんとのところ」
			福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	「VUCA を生き抜く」
			牧 真奈美 (㈱クルサー 代表取締役)	「介護職の役割、社会人として必要なコミュニケーション能力」
			森 弘吉 (㈱エムダイヤ 代表取締役)	「これから社会人になる皆さんへお伝えしたい事」
			遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「生きるということ 働くということ」
8	R4. 9. 2(金)	高岡市立高陵中学校 2 学年 (85 名)	稲田 祐治 (加越能バス㈱ 相談役)	「働くことの意義、社会人としての心構え」
			張田 真 (ハリタ金属㈱ 代表取締役)	「働くことの意義、社会人としての心構え」
			開 章夫 (昭和建設㈱ 代表取締役)	「働くことの意義、社会人としての心構え」
9	R4. 9. 7(水)	富山市立山室中学校 2 学年 (188 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
10	R4. 9. 14(水)	富山県立雄峰高等学校 3 年次 (110 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
11	R4. 9. 24(土)	富山県立魚津高等学校 1 学年 (161 名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「生きるということ～人生って何なんだろう～」
12	R4. 10. 12(水)	富山県立小杉高等学校 1 学年 (159 名)	浦山 哲郎 (学浦山学園 理事長)	「Crossroads」
13	R4. 11. 8(火)	高岡市立志貴野中学校 2 学年 (173 名)	在田 吉宏 (㈱アリタ 取締役社長)	「将来に向けて今やるべきこと～どんな未来を創りたい？～」
			稲田 祐治 (加越能バス㈱ 相談役)	「『14歳の挑戦』をどのように活かすか」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「生きる力」
			土屋 誠 (日本海ガス㈱ 取締役社長)	「あなたは将来どのような仕事に就きたいですか」
			張田 真 (ハリタ金属㈱ 代表取締役)	「生き方を考える」
14	R4. 12. 8(木)	富山市立蜷川小学校 6 学年 (131 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「なりたい自分になろう」
15	R4. 12. 13(火)	黒部市立生地小学校 5・6 学年 (48 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きること」
16	R4. 12. 16(金)	富山県立富山高専支援学校 全学年 (41 名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「人生を幸せにする3つのコツ」
17	R5. 3. 3(金)	富山県立高岡高等学校 1 学年 (280 名)	福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	「大転換期を生き抜く力を考える」

その他の講師派遣実績

<令和3年度>

(8件20名)

No.	開催日	派遣先	講師	内容
1	R3. 6.30(水)	富山市教育委員会 (中堅教諭等資質向上研修:第1回)	稲葉 伸一 氏 (㈱三四五建築研究所 代表取締役) 尾城 敬郎 氏 (三菱商事㈱ 北陸支店長) 尾山 謙二郎 氏 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役) 土屋 誠 氏 (日本海ガス㈱ 取締役社長)	「組織のリーダーとは」 「若手の育成」
2	R3. 7.29(水)	富山県教育委員会 (小・中・県立学校3年次校長研修会)	牧田 和樹 氏 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
3	R3. 8.20(金)	富山県教育委員会 (中・高進路指導研修会)	尾山 謙二郎 氏 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「就職を希望する生徒の進路指導について」
4	R3. 9.15(水)	(独)教職員支援機構、 富山県教育委員会 (キャリア教育指導者養成研修)	高瀬 幸忠 氏 (㈱スカイインテック 取締役社長) 大橋 聡司 氏 (大高建設㈱ 取締役社長) 尾城 敬郎 氏 (三菱商事㈱ 北陸支店長) 土屋 誠 氏 (日本海ガス㈱ 取締役社長) 村尾 于尹 氏 (㈱村尾地研 代表取締役会長) 森 弘吉 氏 (㈱エムダイヤ 代表取締役)	「社会に開かれた教育課程 横の連携 を意識したキャリア教育」
5	R3.11.10(水)	富山県中学校長会 (富山県中学校長会 令和3年度研究大会)	森藤 正浩 氏 (正栄産業㈱ 取締役社長)	「リーダーとしての、アントレプレ ナーシップ」
6	R3.11.11(木)	高岡市小・中学校教務主任会 (研修会)	遊道 義則 氏 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「働き方改革について～私の思うと ころ～」
7	R3.11.24(水)	富山市教育委員会 (中堅教諭等資質向上研修:第2回)	高野 二郎 氏 (タカノ建設㈱ 取締役社長) 東澤 善樹 氏 (とうざわ印刷工芸㈱取締役社長) 森 弘吉 氏 (㈱エムダイヤ 代表取締役) 柳川 三千代 氏 (㈱モーヴ 代表取締役)	「組織のリーダーとは」 「若手の育成」
8	R3.11.24(水)	富山県教育委員会 (中堅教諭等資質向上研修)	高瀬 幸忠 氏 (㈱スカイインテック 取締役社長)	「ミドルリーダーとしての自覚 (役割)」
9	R4. 1.18(火)	富山県高等学校長協会 (令和3年度高等学校長協会研究発表大会)	高瀬 幸忠 氏 (㈱スカイインテック 取締役社長)	「改革の両輪『働き方改革と学び方 改革』」

その他の講師派遣実績

<令和4年度>

(8件24名)

No.	開催日	団 体 等	講 師	内 容
1	R4. 5.18(水)	キャリア教育推進委員会	伊東 潤一郎 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「インターンシップ受入れ企業が 学校教育に求めるもの」
2	R4. 6.22(火)	キャリア教育指導者養成研修(第1回)	稲田 祐治 (加越能バス㈱ 相談役)	「社会に開かれた教育課程 横の 連携を意識したキャリア教育」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	
			川合 紀子 (㈱ステップアップ 代表取締役)	
			高瀬 幸忠 (㈱スカイインテック 取締役社長)	
			丹羽 誠 (㈱ライフプラン研究所 代表取締役)	
			福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	
3	R4. 6.30(木)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第1回)	長 高英 (北陸電力㈱ 常務執行役員営業本部長)	「組織のリーダーとは」「若手の 育成」
			寺島 雅峰 (㈱寺島コンサルタント 代表取締役)	
			丹羽 誠 (㈱ライフプラン研究所 代表取締役)	
			牧 真奈美 (㈱クルサー 代表取締役)	
4	R4. 7.28(木)	小・中・県立学校3年次校長研修会	高瀬 幸忠 (㈱スカイインテック 取締役社長)	「経営者の危機管理」
5	R4. 8.1(月)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第2回)	高松 重信 (みずほ証券㈱ 富山支店長)	「組織のリーダーとは」「若手の 育成」
			田村 元宏 (㈱タムラ設計. 代表取締役)	
			廣田 大輔 (十全化学㈱ 取締役社長)	
			山本 克也 (㈱インテック 執行役員)	
6	R4. 8.23(火)	キャリア教育指導者養成研修(第2回)	伊東 潤一郎 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「社会に開かれた教育課程 横の 連携を意識したキャリア教育」
			稲田 祐治 (加越能バス㈱ 相談役)	
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	
			川合 紀子 (㈱ステップアップ 代表取締役)	
			丹羽 誠 (㈱ライフプラン研究所 代表取締役)	
			村尾 于尹 (㈱村尾地研 取締役会長)	
7	R4. 8.23(火)	県立学校校長研修会	高林 幸裕 (北電産業㈱ 取締役社長)	「私の仕事は自分の仕事をなくすこと ～期待以上の話を聞かせてもらっ喜び～」
8	R4. 11.22(火)	富山県中堅教諭等資質向上研修	大橋 聡司 (大高建設㈱ 取締役社長)	「ミドルリーダーとしての自覚 (役割)」

